

令和2年

# 大仙市中学生議会

実施記録集



令和2年1月9日（木）

主催：大仙市議会・大仙市教育委員会・大仙市

# 【 目 次 】

大仙市中学生議会実施要項	2
大仙市中学生議会（大仙市中学生サミット）次第	3
令和2年 大仙市中学生議会 議事日程【第1号】	4
大仙市中学生議会 議席指定一覧表	5
一般質問通告書	
一般質問者と質問通告内容	6～18
<b>&lt;開会式&gt;</b>	
金谷道男 大仙市議会議長あいさつ	19
<b>&lt;中学生議会&gt;</b>	
会議録（写真入り）	20～53
<b>&lt;閉会式&gt;</b>	
記念品の贈呈	54
吉川正一 教育長あいさつ	54
中学生議員代表（西仙北中学校 佐々木麻央さん）お礼のことば	55

# 大仙市中学生議会実施要項

## 1 目 的

市議会の議場を利用し、未来を担う中学生が“議長や議員”となって、まちづくりや教育行政など、生徒に身近なテーマについて一般質問形式で質問、提案を行い、市政及び市議会への興味と理解を深めるとともに、その体験を実際の学校生活（生徒会活動等）や地域の行事などで役立てていくことにより、総合的な学力の育成の一層の推進を図ります。

中学生議員からいただいた意見などは、これからのまちづくりの参考にしていきます。

学校関係者、中学生議員の保護者も傍聴に訪れることから、市議会にも関心もたれ、今後の市議会の活性化にもつながるものと期待されます。

## 2 主 催

大仙市議会・大仙市教育委員会・大仙市

## 3 開催日及び開催場所

令和2年1月9日（木） 大仙市役所3階「本会議場」

## 4 日 程

### <開会式>

～記録用写真撮影～

1. 開 式
2. 当局職員の紹介（議会事務局長）
3. 議長あいさつ（金谷道男議長）
4. 閉 式

午後1時00分

### <中学生議長・副議長の紹介>（議会事務局長）

### <中学生議会>

1. 開 会（中学生議長）
2. 招集あいさつ（老松博行市長）
3. 議席の指定（中学生議長）
4. 会議録署名議員の指名（中学生議長）
5. 会期の決定（中学生議長）
6. 一般質問 ※一般質問席に登壇 1校1質問

予定時間	1校～5校	午後1時15分～午後2時30分
	休 憩（議長の交代）	午後2時30分～午後2時45分
	6校～11校	午後2時45分～午後4時10分

7. 決議案
8. 閉 会（中学生議長）

### <閉会式>

1. 開 式
2. 記念品の贈呈（吉川正一教育長）
3. 中学生議員 お礼のことば
4. 閉 式

午後4時30分

# 大仙市中学生議会 次 第

## (大仙市中学生サミット)

### 【開会式】

～記録用写真撮影～

1. 開 式
2. 出席者の紹介
3. 大仙市議会議長あいさつ
4. 中学生議長・副議長の紹介

### 【中学生議会 議事日程】

大仙市長招集あいさつ		
第1	議席の指定	
第2	会議録署名議員の指名	
第3	会期の決定（1日間）	
第4	一般質問	
第5	決議案第3号	「笑顔あふれる魅力あるまちづくり」に関する決議

### 【閉会式】

1. 記念品の贈呈
2. 教育長あいさつ
3. 中学生議員 お礼のことば
4. 閉 式

## 令和2年 大仙市中学生議会 議事日程【第1号】

令和2年1月9日（木）午後1時 開 議

大仙市長招集あいさつ		
第1	議席の指定	
第2	会議録署名議員の指名	
第3	会期の決定（1日間）	
第4	一般質問	① 協和中学校 鎌田 稔人 ・ 堀田 龍
		② 大曲中学校 田口 和沙 ・ 高野 優奈
		③ 大曲西中学校 小原 琉羽 ・ 伊藤 侑
		④ 大曲南中学校 小松田 梓音 ・ 進藤 美結
		⑤ 西仙北中学校 三浦 和 ・ 佐々木 麻央
		⑥ 中仙中学校 長澤 晃汰 ・ 佐々木 くくみ
		⑦ 豊成中学校 高橋 希月 ・ 佐々木 葵
		⑧ 南外中学校 伊藤 碧那 ・ 今野 咲希
		⑨ 仙北中学校 小林 聖侑 ・ 富樫 怜未
		⑩ 太田中学校 三浦 千隆 ・ 高階 冴
		⑪ 平和中学校 近 葵衣 ・ 渡辺 奏良
第5	決議案第3号	「笑顔あふれる魅力あるまちづくり」に関する決議

## 大仙市中学生議会 議席指定一覧表

議席番号	中学校名	氏 名	備 考
1	大曲中学校	田 口 和 沙	
2	〃	高 野 優 奈	
3	大曲西中学校	小 原 琉 羽	
4	〃	伊 藤 侑	
5	大曲南中学校	小松田 梓 音	
6	〃	進 藤 美 結	
7	平和中学校	近 葵 衣	
8	〃	渡 辺 奏 良	
9	西仙北中学校	三 浦 和	
10	〃	佐々木 麻 央	
11	中仙中学校	長 澤 晃 汰	
12	〃	佐々木 くくみ	
13	豊成中学校	高 橋 希 月	
14	〃	佐々木 葵	
15	協和中学校	鎌 田 粹 人	
16	〃	堀 田 龍	
17	南外中学校	伊 藤 碧 那	
18	〃	今 野 咲 希	
19	仙北中学校	小 林 聖 侑	
20	〃	富 樫 怜 未	
21	太田中学校	三 浦 千 隆	
22	〃	高 橋 冴	

令和2年  
大仙市中学生議会

# 一 般 質 問

( 令和2年1月9日 )

大仙市中学生議会

## 【一般質問者と質問通告内容】

No.	学校名	学年	氏名	質問通告内容	担当部
1	協和中学校	2年 1年	鎌田 粹人 堀田 龍	大仙市のまちづくり、地域づくりに関すること	企画部
2	大曲中学校	2年 2年	田口 和沙 高野 優奈	花火産業の人材（後継者）育成について	経済産業部
3	大曲西中学校	2年 2年	小原 琉羽 伊藤 侑	「喜び」や「安心」を感じられる子育て支援について	健康福祉部
4	大曲南中学校	2年 2年	小松田梓音 進藤 美結	スポーツ振興の施策について	生涯学習部
5	西仙北中学校	2年 2年	三浦 和 佐々木麻央	大仙市の洪水被害について	建設部
6	中仙中学校	2年 2年	長澤 晃汰 佐々木くくみ	食品ロスへの取組について	市民部
7	豊成中学校	2年 2年	高橋 希月 佐々木 葵	豊成中学校跡地の活用方法について	教育指導部
8	南外中学校	2年 2年	伊藤 碧那 今野 咲希	大仙市の特産品を生かした地域活性化について	経済産業部
9	仙北中学校	2年 1年	小林 聖侑 富樫 怜未	文化財の利活用と郷土芸能と郷土料理を世界への発信について	生涯学習部
10	太田中学校	2年 1年	三浦 千隆 高階 冴	大仙市の農業の活性化について	農林部
11	平和中学校	2年 2年	近 葵衣 渡辺 奏良	災害対策・避難所について	総務部

# 一般質問発言通告書

令和元年12月16日

午後5時15分 受付

発言事項	発言要旨
<p>【企画部】</p> <p>大仙市のまちづくり、地域づくりに関すること</p>	<p>少子高齢化や過疎化が進み、地域の明るさ、活発さが減ってきており、地域がもっと元気に活気を取り戻す活動をする必要がある状況の中で、</p> <p>①高齢者や小・中学生と定期的に話をしたり、スポーツなどをしたりするような身近にできるイベントを企画してみてはいかがか。</p> <p>市としての今後の計画を伺いたい。</p>

上記のとおり通告します。

令和元年12月16日

大仙市立協和中学校

2年 氏名 鎌田 粹人  
1年 氏名 堀田 龍

大仙市中学生議会 議長 様

# 一般質問発言通告書

令和元年12月16日

午後5時15分 受付

発言事項	発言要旨
<p>【経済産業部】</p> <p>花火産業の人材（後継者）育成について</p>	<p>①大曲の花火産業を持続的に発展させていくために、大仙市に花火を支える人材を育てる専門学校をつくってみてはどうか。</p> <p>この提案について、現状と今後の計画を伺いたい</p>

上記のとおり通告します。

令和元年12月16日

大仙市立大曲中学校

2年 氏名 田口 和沙  
2年 氏名 高野 優奈

大仙市中学生議会 議長 様

# 一般質問発言通告書

令和元年12月16日

午後5時15分 受付

発言事項	発言要旨
<p>【健康福祉部】</p> <p>「喜び」や「安心」を感じられる子育て支援について</p>	<p>子育てに喜びや安心を感じられるように、次の二点を提案したい。</p> <p>①気軽に相談できるために、SNSを使った相談体制を作ること。</p> <p>②子どもが自由に遊べたり、親同士が直接交流したりすることができるような子育て交流広場を作ること。</p> <p>この提案について、現状と今後の計画を教えてください。</p>

上記のとおり通告します。

令和元年12月16日

大仙市立大曲西中学校

2年 氏名 小原 琉羽  
2年 氏名 伊藤 侑

大仙市中学生議会 議長 様

# 一般質問発言通告書

令和元年12月16日

午後5時15分 受付

発 言 事 項	発 言 要 旨
<p>【生涯学習部】</p> <p>スポーツによる地域の活性化について</p>	<p>子どもからお年寄りまで、運動を楽しみ、みんなが健康に過ごせるまち大仙にしていきたいと考えている。次の二点について提案したい。</p> <p>①多くの小中学生や市民が、一流のスポーツ選手とふれあえるイベントや講演会を多く開催すること</p> <p>②各地区の運動施設の情報やおすすめのウォーキング、ランニングコースなどがかかれた市民健康マップの作成、配布すること。</p> <p>この提案について、市の考えを伺いたい。</p>

上記のとおり通告します。

令和元年12月16日

大仙市立大曲南中学校

2年 氏名 小松田 梓音  
2年 氏名 進藤 美結

大仙市中学生議会 議長 様

# 一般質問発言通告書

令和元年12月16日

午後5時15分 受付

発 言 事 項	発 言 要 旨
<p>【建設部】</p> <p>大仙市の洪水被害について</p>	<p>①二年前の洪水被害における工事を行っていますがこの工事の完成によって西仙北地区及び協和地区の洪水被害がどの程度軽減されると期待されているのかをお聞きしたい。</p> <p>②夜中に災害が起きた場合サイレン等簡単に住民へ知らせるものを作ること。また、災害時の避難経路を作ることについて提案したい。</p> <p>このことについて、市の考えを教えてください。</p>

上記のとおり通告します。

令和元年12月16日

大仙市立西仙北中学校

2年 氏名 三浦 和  
2年 氏名 佐々木麻央

大仙市中学生議会 議長 様

# 一般質問発言通告書

令和元年12月16日

午後5時15分 受付

発 言 事 項	発 言 要 旨
<p>【市民部】</p> <p>食品ロスへの取組について</p>	<p>①食品ロスへの意識向上のためにも、「食べきり協力店」という市のこの取組を小中学生に向けてもっとPRしてみてもどうか。</p> <p>この提案について、今後の計画を伺いたい。</p>

上記のとおり通告します。

令和元年12月16日

大仙市立中仙中学校

2年 氏名 長澤 晃汰

2年 氏名 佐々木くくみ

大仙市中学生議会 議長 様

# 一般質問発言通告書

令和元年12月16日

午後5時15分 受付

発言事項	発言要旨
<p>【教育指導部】</p> <p>豊成中学校跡地の活用方法について</p>	<p>①空き校舎を利用して、小中高生と地域の方が関わり合えるような場所づくりを行うのはいかがか。</p> <p>この提案について、現状と今後の計画を教えてください。</p>

上記のとおり通告します。

令和元年12月16日

大仙市立豊成中学校

2年 氏名 高橋 希月  
2年 氏名 佐々木 葵

大仙市中学生議会 議長 様

# 一般質問発言通告書

令和元年12月16日

午後5時15分 受付

発言事項	発言要旨
<p>【経済産業部】</p> <p>大仙市の特産品を生かした地域活性化について</p>	<p>大仙市内それぞれの地域に特産品がある。そこでその特産品を生かした地域活性化の取組として次の二つを提案したい。</p> <p>①地域への愛着をより一層深め、地域活性化への気運を高めるために、その特産品やパッケージのデザインに小中学生のアイディアを取り入れてはどうだろうか。</p> <p>②購入者に特産品と地域の両方に興味をもってもらうために、その特産品を使った料理のレシピカードや使い方の説明カードなどを作成し、それに地域紹介や行事等の情報も載せて商品に添えてはどうだろうか。</p> <p>このことについて、市としての考えを伺いたい。</p>

上記のとおり通告します。

令和元年12月16日

大仙市立南外中学校

2年 氏名 伊藤 碧那  
2年 氏名 今野 咲希

大仙市中学生議会 議長 様

# 一般質問発言通告書

令和元年12月16日

午後5時15分 受付

発 言 事 項	発 言 要 旨
<p>【生涯学習部】</p> <p>郷土料理や体験活動を取り入れた文化財の有効活用と世界への情報発信について</p>	<p>素晴らしい文化財は、大仙市内の他の地域にもあります。その素晴らしい文化財を生かすために、次のことを提案したい。</p> <p>①郷土料理の提供と楽しめる体験活動をコラボさせてみてはいかがか。</p> <p>この提案について、市の考えを教えてください。</p>

上記のとおり通告します。

令和元年12月16日

大仙市立仙北中学校

2年 氏名 小林 聖侑  
1年 氏名 富樫 怜未

大仙市中学生議会 議長 様

# 一般質問発言通告書

令和元年12月16日

午後5時15分 受付

発言事項	発言要旨
<p>【農林部】</p> <p>大仙市の農業の活性化について</p>	<p>使われなくなった土地をできるだけ有効活用し、大仙市などの農業をより活性化させるために、次の三つについて提案したい。</p> <p>①荒れた田んぼに曲がりねぎなど地域の特産物を栽培すること。</p> <p>②農業高校や企業などに田んぼを貸したり寄付したりして、そこで作られた米などをブランド化して宣伝・販売すること。</p> <p>③田植え・稲刈体験を行っている地域も見られるが今後、空いた土地などを十分に活用して、よりよい魅力ある滞在型の農業体験ができる「アグリツーリズム」に強化拡充していくこと。</p> <p>この提案について、現状と今後の計画を教えてください。</p>

上記のとおり通告します。

令和元年12月16日

大仙市立太田中学校

2年 氏名 三浦 千隆  
1年 氏名 高橋 冨

大仙市中学生議会 議長 様

## 一般質問発言通告書

令和元年12月16日

午後5時15分 受付

発言事項	発言要旨
<p>【総務部】</p> <p>災害対策・避難所について</p>	<p>大仙市地域防災計画の緊急救援物資の備蓄状況を見ると、市の備蓄品の種類や量は十分ではないように考えます。</p> <p>①今後備蓄品の種類は、どのように充実させていくのでしょうか。また、寒さや暑さ、プライバシー対策のために、どのような対策を講じているのでしょうか。</p> <p>②大仙市内は学校の統廃合などで、使われていない学校があるので、その施設を備蓄倉庫として活用していくのはいかがでしょうか。また、平和中学校のように、避難所になる学校等に毛布などを備蓄していただくことはできないでしょうか。</p> <p>このことについて、市の考えを伺いたい。</p>

上記のとおり通告します。

令和元年12月16日

大仙市立平和中学校

2年 氏名 近 葵衣  
 2年 氏名 渡辺 奏良

大仙市中学生議会 議長 様

## <開会式>

### ◆ 金谷道男 大仙市議会議長あいさつ



皆さん、こんにちは。そしてまた、明けましておめでとうございます。

ご紹介いただきました、大仙市議会議長の<sup>かなやみちお</sup>金谷道男と申します。よろしくお願いいたします。

本日は、将来の大仙市を担う中学生の皆さんに、市議会の仕組み、そのやり方、そして市役所の仕事などについて、実体験を通して知っていただき、理解をしていただきたいと思います。

第3回目の中学生議会を開催しましたところ、市内11中学校の代表である22人の中学生議員の皆さんには、たいへん寒い中、そしてまた、冬休みの貴重な時間、ようこそお越しくださいました。市議会を代表いたしまして、歓迎申し上げます。

また、傍聴席には保護者の皆さんをはじめ、ご協力いただきました学校関係者など多くの方々からお集まりいただき、中学生議会がこのように盛大に開催できましたことに、心より感謝申し上げます。

さて、皆さんが本日お集まりのこの場所は、大仙市議会の本会議場というところです。私たち市議会議員が市民を代表して、大仙市をさらに良くしていこうという思いから、市が行う様々な事業などに質問や提案を行い、そして決定する場所でもあります。したがって、大変重要で厳粛な場所でもあります。

本日は、私たち市議会議員に代わって、中学生議員の皆さんから大仙市のまちづくり、福祉、教育、文化など身近な問題について質問していただき、さらに、大仙市の将来の都市像について語っていただけるということで、たいへん楽しみにしております。そして意義深く感じております。

本日の質問を行うに当たり、皆さんはたくさんの準備をし、ふるさと大仙をいろいろな角度から見つめ直したことと思います。第1回目の中学生議会では、中学生議員から提案された大仙市のゆるキャラの作成が、市のマスコットキャラクター「まるびちゃん」の誕生につながりました。本日も、中学生ならではの発想とエネルギーな質問を大いに期待しております。

市議会といたしましても、皆さんから出された意見や提案を、今後のまちづくりの参考にさせていただきたいと思い、先程ご紹介いただきましたように、たくさんの議員の皆さんが傍聴しております。皆さんの良い提案を、今後の議会の中での活用につながるかもしれませんので、頑張って質問していただきたいと思います。

結びにあたり、本日の中学生議会が、参加されているお一人おひとりにとって、貴重な体験の場になりますことと、将来、皆さんの中から、ぜひ、市議会議員、市長が出ることをも期待をして、あいさつとさせていただきます。

それでは皆さん、元気いっぱい頑張ってください。終わります。



# <中学生議会>

令和2年大仙市中学生議会会議録第1号

令和2年1月9日(木曜日)

議事日程第1号

令和2年1月9日(木曜日)午後1時12分開議

- 第1 議席の指定
- 第2 会議録署名議員の指名
- 第3 会期の決定(1日間)
- 第4 一般質問
- 第5 決議案第3号「笑顔あふれる魅力あるまちづくり」に関する決議

出席議員(22人)

1番 田口和沙	2番 高野優奈	3番 小原琉羽
4番 伊藤侑	5番 小松田梓音	6番 進藤美結
7番 近葵衣	8番 渡辺奏良	9番 三浦和
10番 佐々木麻央	11番 長澤晃汰	12番 佐々木くくみ
13番 高橋希月	14番 佐々木葵	15番 鎌田粹人
16番 堀田龍	17番 伊藤碧那	18番 今野咲希
19番 小林聖侑	20番 富樫怜未	21番 三浦千隆
22番 高階冴		

欠席議員(0人)

遅刻議員(0人)

早退議員(0人)

説明のため出席した者

市長	老松博行	副市長	佐藤芳彦
副市長	西山光博	教育長	吉川正一
代表監査委員	福原堅悦	上下水道事業管理者	今野功成
総務部長	舂谷祐幸	企画部長	福原勝人
市民部長	加藤博勝	健康福祉部長	加藤実
農林部長	福田浩	経済産業部長	高橋正人
建設部長	古屋利彦	災害復旧事務所長	進藤孝雄
病院事務長	富樫公誠	教育指導部長	佐藤英樹
生涯学習部長	安達成年	教育指導部次長兼教育指導課長	島田智

---

議会事務局職員出席者

局	長	齋藤博美	参	事	高橋直美
参	事	進藤稔剛	参	事	富樫康隆

---

議会運営補助職員出席者

中仙支所	市民サービス課	主	幹	菅原直久
------	---------	---	---	------

---

午後1時12分 開 会

○議長（近 葵衣） 皆さん、こんにちは。

先程、ご紹介をいただきました議長の平和中学校、<sup>こんあおい</sup>近葵衣です。



○議長（渡辺奏良） 同じく、<sup>わたなべそうら</sup>渡辺奏良です。

○議長（近 葵衣） 私たちのまち大仙市が希望に満ちた住みよいまちになるように、今日の中学生議会を頑張りたいと思いますので、中学生議員の皆さんのご協力をお願いします。

また、本日は、市長さん、市議会議長さんをはじめ、多くの関係者の皆さん

にご出席をいただき、ありがとうございました。

それでは、ただ今より、令和2年大仙市中学生議会を開会いたします。

市長さんから招集の挨拶があります。老松市長さん。

#### 【老松市長 登壇】

○市長（老松博行） 皆さん、こんにちは。大仙市長の<sup>おいまつひろゆき</sup>老松博行と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。

本日の中学生議会は市議会と市、そして教育委員会の共催で実施しているものであります。今回で3回目の開催ということになります。本日は、次世代を担う中学生の皆さんから、議員としてご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

この中学生議会につきましては、「大仙市中学生サミット」の取組を踏まえ、中学生の皆さんが議員となって、実際に大仙市議会が開催されている議場を利用し、市議会と同じ形式で開催されるものであります。

中学生の皆さんが、大仙市のまちづくりについて「こうあるべきではないか」といった問題意識を持つことや、普段から考えていることを提案することは、大仙市への関心と理解を深める良い機会になるとともに、今後のまちづくりを進めていく上で、大変重要な意味を持っているものと思っております。

中学生の皆さんから、実際にどのような提案・意見をいただけるのか楽しみにしております。また、いただいた提案や意見につきましては、これからのまちづくりの参考とさせていただきたいというふうに思っております。

本日の中学生議会が、大仙市の未来を考える有意義な場となりますことを心から期待いたしまして、招集の挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞ、よろしくお願いいたします。

#### 【老松市長 降壇】



○議長（近 葵衣） これより、本日の会議を開きます。

---

○議長（近 葵衣） 本日の議事は、議事日程第1号をもって進めます。

---

○議長（近 葵衣） 日程第1、議席の指定を行います。

議席は、議長において指定いたします。議席番号と氏名を読み上げますので、呼ばれた方は「はい」と返事をし、その場でご起立願います。

（議長 議席番号、学校名、氏名を読み上げる。）

○議長（近 葵衣） ただ今、読み上げましたとおり、議席を指定いたします。

---

○議長（近 葵衣） 日程第2、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、議席番号1番、大曲中学校、田口和沙<sup>たくちかずさ</sup>さん。3番、大曲西中学校、小原琉羽<sup>おぼらるう</sup>さん。5番、大曲南中学校、小松田梓音<sup>こまつだしおん</sup>さん。

以上、3名の方々をお願いいたします。

---

○議長（近 葵衣） 日程第3、会期の決定を議題といたします。

お諮りいたします。中学生議会の会期は、本日1日といたしたいと思えます。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（近 葵衣） ご異議なしと認めます。よって、会期は本日1日と決定いたしました。

---

○議長（近 葵衣） 日程第4、一般質問を行います。

一般質問は通告書のとおり、学校ごとに行います。順次、質問をお願いします。

最初に協和中学校、15番、鎌田粹人<sup>かまたすいと</sup>さんと、16番、堀田龍<sup>ほりたりゅう</sup>さんをお願いします。

○協和中学校（鎌田粹人） はい、議長、15番。

○協和中学校（堀田 龍） はい、議長、16番。

【協和中学校議員 対面式演壇へ登壇】

○議長（近 葵衣） それでは16番、堀田さん、質問をお願いします。

○協和中学校（堀田 龍） 協和中学校の堀田龍です。企画部に、大仙市のまちづくり、地域づくりに関する事を質問します。



市のホームページによると、20歳から39歳の人口は6,585人で、総人口の8.1パーセント、全国平均10.4パーセントより2.3パーセントも低い割合となっています。また、大仙市の2015年の総人口に占める65歳以上の割合（高齢化率）は34.6パーセントで既に3割を超えており、全国平均の26.6パーセントを8パーセントも高い割合となっています。今後、高齢化率は2045年までに12パーセント上昇し、46.6パーセントに達し、おおよそ10人に5人が65歳以上の高齢者になるというデータがありました。

また、日本全国がそうであるように、大仙市も少子高齢化社会に突入しています。地域の明るさ、活発さが減り、今後の地元の活性化が懸念されます。そこで、地域が元気に活気を取り戻す活動をしてみてはどうでしょうか。地域を元気にすると

いうことは、そこに住む多くの人々を元気にすることだと思います。

市のホームページ、市政評価の重要度は高いが満足度が低い項目によると、「雇用・就労」において評価が低い状況にあります。私たち若者と高齢者が生き生きと住み続けられ、活気あるまちづくりを展開していきたいと考えます。

そこで「まだ働ける、働きたい」と思っている65歳以上の高齢者に、活躍できる地域の場所の提供を行い、地域に伝わる伝統や郷土料理、知識や技術を若者に伝えるという場（職場）などを設けてはいかがでしょうか。私たち協和中学校では「地域貢献ジャー活動」という活動に取り組んでいます。地域の方々と挨拶運動や駅舎清掃活動、グラウンドゴルフ交流などを行っています。そこに来てくださる方は、生き生きと輝いています。

そこで、高齢者や小・中学生と定期的に話をしたり、郷土料理を伝承したり、スポーツをしたり、身近にできるイベントなどの企画をしてみてもどうでしょうか。

市としての、今後の計画を教えてください。

○議長（近 葵衣） 質問が終わりました。答弁をお願いします。福原企画部長さん。

【企画部長 登壇】

○企画部長（福原勝人） 協和中学校の鎌田さん、堀田さんの質問にお答えいたします。

高齢者と小・中学生が定期的に交流できるイベントの企画についてでありますけれども、現在、教育委員会の事業の中で、学校・家庭・地域が一体となって、地域ぐるみで皆さんを育て、見守る体制づくりを行っております。

これは「地域学校協働活動」といって、地域の様々な人材が連携・協働して、未来を担うべき皆さんや地域の核となる学校の活動を支援する取組です。例えば、地域の高齢者の方が先生になり、地域の伝統行事である鹿島流し、ささら舞、ドンパン踊りなどの指導、あるいは花の植栽、田んぼでの農作業体験など、地域の特色を生かした多岐にわたる内容で、市内8地域全てで実施されております。また、その他にも各地域の公民館等を中心に「三世代交流事業」や「住民運動会」など、地域や学校ごとに特色ある活動が行われ、高齢者と触れ合って交流を深めながら、かけがえのない多くのことを学ばれていると感じております。

市では、お二人からいただいた今回のような提案が、地域を元気にすることにつながるというふうと考えておりますので、中学生サミットで話し合われた内容などをもとに、今後とも、既存の事業の拡大・拡充や新たな企画について、地域の学校と一緒に取り組んでまいりたいと考えております。

以上です。

【企画部長 降壇】

○議長（近 葵衣） 再質問はありませんか。



○協和中学校（鎌田粹人） はい、議長。

○議長（近 葵衣） はい、15番、鎌田さん、再質問をお願いします。

○協和中学校（鎌田粹人） 小・中学生が企画した活動を行うことはできるのでしょうか。他の地域で、そのような活動を行っているのであれば教えてください。

また、地域の伝統行事や郷土料理などを教えてもらう交流や、一緒に楽しめる活動など、中学生が参加できることがあったら教えてください。

○議長（近 葵衣） 再質問に対する答弁をお願いします。老松市長さん。

【老松市長 登壇】

○市長（老松博行） 協和中学校、鎌田さん、堀田さんの再質問にお答えいたします。

小・中学生の皆さんが企画した事業が、実際に実施されているケースにつきましてではありますが、西仙北地域では刈和野の大綱引き当日、西仙北中学校の生徒有志の皆さんが観光客のおもてなし、道案内のほか、飲み物を配るボランティア活動を企画して、そして実施しております。

また、協和地域では、お二人ともね、ご存じだと思いますけれども、協和中学校の皆さんによる「地域活性化アイデアコンテスト」が開催されております。今年で3回目を迎え、今回は協和地域を巡る観光ツアーを提案していただいたところではありますが、これまで数々の素晴らしいアイデアの中から事業化を目指した動きも今、出てきております。

先程も答弁申し上げましたとおり、市では、小・中学生の皆さんと一緒に、地域を元気にする事業を企画できればというふうに思っておりますので、ぜひ、いろいろな提案をお願いしたいというふうに思います。

なお、現在、他の地域で行われている交流活動につきましては、南外地域では南外産のそば粉を使ったそば打ち体験、太田地域では太田の火まつりで上げる紙風船作りを地域の方々と一緒に行っていたいております。

他にも各地域で実施しておりますので、実施時期などを各支所などへ問い合わせいただいた上で、ぜひ、地域資源を生かした様々な事業に参加していただき、地域の盛り上げ役として活動していただければというふうに思っております。

以上です。

【老松市長 降壇】

○議長（近 葵衣） これにて協和中学校、15番、鎌田粹人さんと、16番、堀田龍さんの一般質問を終わります。

【協和中学校議員 自席へ】

○議長（近 葵衣） ここで、議事の進行を渡辺奏良さんと交代するため、暫時、休憩いたします。  
午後1時31分 休 憩

午後1時31分 再 開

○議長（渡辺奏良） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

ここからの議事を進行します、平和中学校の渡辺奏良です。よろしく願いいたします。  
一般質問を続けます。

次に大曲中学校、1番、たくちかずさ田口和沙さんと、2番、たかのゆうな高野優奈さんをお願いします。

○大曲中学校（田口和沙） はい、議長、1番。

○大曲中学校（高野優奈） はい、議長、2番。

【大曲中学校議員 対面式演壇へ登壇】

○議長（渡辺奏良） それでは1番、田口さん、質問をお願いします。

○大曲中学校（田口和沙） 大曲中学校の田口和沙です。経済産業部に、花火産業の人材育成について質問します。

大仙市では近年、人口が減少の一途をたどっています。平成21年4月末日の統計では9万2,0

78人だった人口が、平成31年4月末日では8万1,133人と、10年余りで1万1千人ほど減っているのです。また、少子高齢化も進んでおり、平成30年10月1日現在の日本の高齢化率が28.1パーセントに対し、大仙市では平成27年の高齢化率は34.6パーセントと上回っています。それに伴い、大仙市の地域資源である「大曲の花火」の担い手も減少傾向にあります。大仙市では人材育成のために、大学や研究機関の協力を得て人材育成に当たっていることを聞きました。



「大曲の花火」という地域資源を今後も発展させていくためには、花火を支える人材育成が必要であると考えます。全国を見ても花火に関する教育機関が少ない中、大仙市に花火を支える人材育成のための教育機関をつくってみてはいかがでしょうか。

この提案について、現状と今後の計画を教えてください。

○議長（渡辺奏良） 質問が終わりました。答弁をお願いします。高橋<sup>たかはし</sup>経済産業部長さん。

【経済産業部長 登壇】

○経済産業部長（高橋<sup>たかはし</sup>まさと） 大曲中学校、田口さん、高野さんの質問にお答えいたします。

質問の、花火産業の人材育成についてであります。本市は国内最高峰の花火大会と称される全国花火競技大会「大曲の花火」をはじめ、毎月花火が打ち上がる「花火のまち」として全国にPRしております。

また、国内の花火玉製造会社125社のうち、本市に5社、隣的美郷町に1社があり、この地域は花火会社の集積地となっております。近年において、花火は野外ステージや各種イベントにおいても効果的な演出手法であることなどから、花火玉製造業にはさらなる市場拡大の可能性にあります。

しかしながら、人口減少・少子高齢化の影響もあり、花火業界においても将来的な後継者不足は懸念されておりますので、人材の確保は必要不可欠であります。そして、花火師には、高品質で安全な花火玉を製造し、打ち上げる技術的な能力の向上も必要とされています。

そのようなことから、市では平成26年3月に策定した「大仙市花火産業構想」における施策の一つとして、日本で唯一、煙火学の専修課程がある栃木県の足利大学と連携し、花火を支える人材の育成に取り組んでおります。具体的には、花火の製造・保安に必要な責任者資格を取得するための講座、市内及び美郷町の花火会社に勤務する花火師を対象としたスキルアップ講座、高校生に花火に対する関心を高めてもらうことを目的とした煙火学講座を開催しております。

これらの取組を今後も継続するとともに、花火に携わる仕事の魅力を無料職業安定所や首都圏移住相談会等で発信し、地元での雇用創出、移住・定住を促進してまいります。

ご提案の花火を支える人材を育成する専門学校につきましては、県立大曲技術専門校への花火講座設置に向け、平成25年から26年にかけて、県との協議を重ねましたが、指導員の不足などから、現状では難しいという結論に至りました。

しかしながら、花火師や花火師を目指す方の技術習得の場としては、専門校の活用が最も望ましいと思われまますので、引き続き、技術専門校への花火講座設置を要望してまいります。

「大曲の花火」は全国的にも知名度が高く、花火は本市最大の観光資源であることから、花火会社をはじめ関係機関との連携を図りながら、花火に関わる優れた人材の確保や育成に力を入れたいと考えております。

以上です。

【経済産業部長 降壇】

○議長（渡辺奏良） 再質問はありませんか。はい、2番、高野さん、再質問をお願いします。

○大曲中学校（高野優奈） はい、議長。大曲中学校の高野です。再質問をします。



人材育成のために、大学や研究機関の協力を得ているということですが、あまり大仙市民に知られていないと感じます。出前講座などを開いて花火を支える人材を育成していることを、大仙市内の小・中学校の児童生徒に知ってもらうという取組をしてみたいかでしょうか。

○議長（渡辺奏良） 再質問に対する答弁をお願いします。老松市長さん。

【老松市長 登壇】

○市長（老松博行） 大曲中学校、田口さん、高野さんの再質問にお答えします

先程申し上げたとおり、花火産業構想の取組の一つとして、栃木県の足利大学との連携により、花火を支える人材の確保・育成に取り組んでまいりました。

また、市としても出前講座を行っており、昨年6月には、大曲中学校1年生の総合的な学習におきまして、市の観光課職員が花火を中心とする市の観光について講義しております。

こうした取組の様様につきましては、報道機関への取材依頼により地方紙などで取り上げられることはありましたが、ご指摘のとおり、広く内外には浸透していない状況であったと思います。

今後は、市が行っている取組を大仙市の将来を担う小・中学生の皆さんにも知ってもらえるよう、出前講座の拡充や各種メディアを活用した情報発信を積極的に実施してまいりたいというふうに考えております。

そして、市内の小・中学生の皆さんの中から、将来の花火師となる人材が生まれることを、大いに期待したいというふうに思います。

以上です。

【老松市長 降壇】

○議長（渡辺奏良） これにて大曲中学校、1番、田口和沙さんと、2番、高野優奈さんの一般質問を終わります。

【大曲中学校議員 自席へ】

○議長（渡辺奏良） 次に大曲西中学校、3番、小原<sup>おぼらるう</sup>琉羽さん、4番、伊藤<sup>いとうあつむ</sup>侑さんをお願いします。

○大曲西中学校（小原琉羽） はい、議長、3番。

○大曲西中学校（伊藤 侑） はい、議長、4番。

【大曲西中学校議員 対面式演壇へ登壇】

○議長（渡辺奏良） それでは3番、小原さん、質問をお願いします。

○大曲西中学校（小原琉羽） 大曲西中学校の小原琉羽です。健康福祉部に、喜びや安心を感じられる子育て支援について質問します。

今、少子高齢化が進み、秋田県の人口は年々減少傾向にあることが、ニュースや新聞などで伝えられています。私たちは、少子高齢化が進んでいる原因の一つに、子育ての難しさがあるのではないか



と考えます。令和元年度の市政評価によると、子育てに関する項目の満足度、重要度は前年度より上がっていることが分かります。しかし、大仙市子ども・子育て事業計画の「子育てに関する悩みや気になること」という資料を見ると、「病気や栄養に関すること」などの他に「話し相手や相談相手がないこと」「誰に相談したらいいか分からない」などの悩みが多数ありました。このことから、まだまだ子育てに不安や悩みを抱えている人が多くいると思われます。

私たち中学生は未来の担い手です。私たち若者が将来も大仙市に住み、結婚し、子育てしたいと思えるような市であれば、少子高齢化にも歯止めがかかり、やがては地域活性化にもつながるのではないのでしょうか。

そこで、子育てに喜びや安心を感じられるように、次の2点を提案します。

1点目は、SNSを使った相談体制を作ることです。SNSであれば、気軽に相談できると思います。

2点目は、子育て交流広場を作ることです。そういう場所があれば、子どもが自由に遊べたり、親同士が直接交流したりすることができます。

この提案について、現状と今後の計画を教えてください。

○議長（渡辺奏良） 質問が終わりました。答弁をお願いします。加藤健康福祉部長さん。

【健康福祉部長 登壇】

○健康福祉部長（加藤 実） 大曲西中学校、小原さん、伊藤さんの質問にお答えします。

はじめに、SNSを使った相談体制についてであります。大仙市では、市内3カ所にある健康増進センター内に昨年7月1日に、子育て世代包括支援室「すくすくはなび」を開設しました。

この施設は、妊産婦や乳幼児の実情を把握し、妊娠・出産・子育てに関する相談や、関係機関との連絡調整を行い、切れ目のない子育て支援の拠点となるものですが、この開設を機に、携帯電話のショートメール、また、SNSの一つであるラインを利用した相談をスタートさせたところです。担当の保健師と気軽に不安や悩みを相談できるツールとして、少しずつ利用者も増えてきております。

また、妊娠から出産、子育ての各段階で、それぞれのタイムリーな情報発信として、スマートフォンを利用したサービスも導入しました。このスマホアプリが、母子手帳アプリ「すくすくはなび」です。

母子手帳交付時に、専用のQRコードを読み取ってダウンロードし、出産予定日を登録していただきますと、妊娠週数に応じたアドバイスやメッセージが届くようになります。

出産後に、赤ちゃんの誕生日を登録すると、お子さんの成長段階に応じた乳幼児健診や予防接種の案内が自動的に通知され、保護者にとりましては、子育てに必要なスケジュール管理に役立つものがあります。

子育てに不安や悩みを抱えている人に対しては、きめ細かな相談が必要であることから、個人情報の取り扱いに注意しながらも、SNSを大いに活用し、気軽に利便性の高い相談体制を目指してまいります。

そのためにも、今後とも、乳幼児健診などのあらゆる機会を捉えた子育て世帯への周知を、より一層図ってまいりたいと考えております。

次に、子育て交流広場についてであります。子どもたちが自由に遊べる場所、子育て世代の親同士の交流の場として、現在、大仙市内には大曲地域に「まるこのひろば」、中仙地域に「うさちゃん

ひろば」、西仙北地域に「つなっこひろば」の3カ所開設されております。

原則、小学校低学年までのお子さんが無料で利用でき、気軽に親子で遊べるほか、子育てに関する相談ができるように、それぞれの広場には子育てアドバイザーを2名以上配置しております。

また、市内各地域の認定こども園10カ所でも、乳幼児と保護者を対象に、園の開放や子育て相談の機会を設けております。

これらの広場や認定こども園では、「話し相手や相談相手がいない」「誰に相談していいかわからない」など、子育てに関する不安や悩みを解消するための場や、子育て親子同士の情報共有やコミュニケーションを図る場としても活用していただいております。

今後は、子育て世帯に対する事業の周知に努め、より一層の利用促進を図るほか、未来の担い手である小学生・中学生の皆さんにも、将来、大仙市で結婚し、子どもを育ててみたいと思ってもらえるよう、大仙市の子育てに関する取組を積極的にPRしてまいりたいと考えております。

以上です。

#### 【健康福祉部長 降壇】

○議長（渡辺奏良） 再質問はありませんか。はい、4番、伊藤さん、再質問をお願いします。

○大曲西中学校（伊藤 侑） はい、議長。大曲西中学校、伊藤侑です。再質問をします。



この提案を実行するとしたら、宣伝方法として「育児に関するCMを流す」「ポスターを掲示する」ことが考えられます。CMやポスターのデザインは中学生でも考えられますし、子育て交流広場は、中学生もボランティアとして子どもたちと遊んだりできると思います。

このように、中学生でもできることがありましたら教えてください。

○議長（渡辺奏良） 再質問に対する答弁をお願いします。西山副市長さん。

#### 【西山副市長 登壇】

○副市長（西山光博）<sup>にしやまみつひろ</sup> 大曲西中学校、小原さん、伊藤さんの再質問にお答えします。

中学生の皆さまが、子育て事業に対して、こうしたご提案やご提言をされるのは、将来も大仙市で暮らしてみたいという気持ちがひしひしと感じられ、大変心強く思っております。

大仙市といたしましても、子育て支援事業は少子化対策にもつながる根幹と考え、新たな事業を協議しているほか、今までのPR不足を反省し、「子育て情報発信事業」を令和2年度から強力に実施する予定です。市のホームページはもちろん、母子手帳アプリの情報発信に加え、コミュニティFM「FMはなび」をもっと活用し、市内の子育て支援に関する情報を定期的に発信していく事業です。

こうしたPR活動の中で、ご提案いただいたCMについては、例えば、FMはなびに市の職員が出演するよりも、中学生の皆さまが出演してお話していただければ、とてもインパクトがあると思います。また、子育てに関するポスターも中学生の皆さまに制作していただき、それを乳幼児検診の会場などに展示することなどもでき、視覚に訴えるPR効果が大変大きいものと考えております。

他にも、様々なメディアでPRする際には、大仙市の子育て支援事業をアピールするロゴやデザイン、あるいは子育てキャラクターなどを、中学生の皆さまの柔らかな発想でご提案いただければ、より事業効果が上がるものと考えられます。

また、ボランティア活動として、先程答弁させていただいた子育て交流広場などで子育て体験しよ

うとする場合は、中学校を通して申し込んでいただくことが可能です。現在も、ふるさと博士事業のポイントを受けられる活動でありますので、ぜひ、選択肢の一つに加えていただきたいと思います。ボランティアの内容としては、本の読み聞かせや歌や音楽、お絵描き、折り紙など、いろいろな遊びを一緒にやっていただくだけでも、子供たちはとても喜んでくれます。

さて、実は中学生の皆さまのご両親や祖父母は、今まさに子育ての真っ最中の世帯であります。皆さんが家に帰って、ご家族で子育てのことを話し合うことこそが、大仙市の事業についての一番のPRになります。

今後とも、大仙市と将来を担う中学生の皆さんが、一体（ワンチーム）となって、子育てに優しい大仙市を一緒に作り上げてまいりたいと考えております。

以上です。

【西山副市長 降壇】

○議長（渡辺奏良） これにて大曲西中学校、3番、小原琉羽さんと、4番、伊藤侑さんの一般質問を終わります。

【大曲西中学校議員 自席へ】

○議長（渡辺奏良） 次に大曲南中学校、5番、小松田梓音さん、6番、進藤美結さんをお願いします。

○大曲南中学校（小松田梓音） はい、議長、5番。

○大曲南中学校（進藤美結） はい、議長、6番。

【大曲南中学校議員 対面式演壇に登壇】

○議長（渡辺奏良） それでは5番、小松田さん、質問をお願いします。

○大曲南中学校（小松田梓音） 大曲南中学校の小松田梓音です。生涯学習部に、スポーツによる地域の活性化について質問します。



大仙市では、毎年5月に「チャレンジデー」に参加し、多くの市民がスポーツを楽しむ1日となっています。また、500歳野球では全県から180チームが参加し、市内18会場で熱戦が繰り広げられました。しかし、平成28年度に大仙市から出された「第2次総合計画基本構想」を見ると、20歳以上の市民で週1回スポーツを行っている割合は36パーセントとなっており、一時的に運動をする人はいても、継続的に行っている人はそれほど多くないということが分かります。

スポーツに親しむためには、まずはきっかけが必要です。今年は東京オリンピック、パラリンピックが開催され、私たちがスポーツに親しむ絶好の1年になると思います。私たち大曲南中学校の生徒は、車いすバスケットの体験をしたり、視覚障がい者柔道の半谷静香選手の講演会に参加したりと、今まで経験したことのないスポーツに触れる機会があり、大変興味をもつことができました。やはり、本物に触れることがスポーツに親しむためには大切だと実感しました。

私たちは、子どもからお年寄りまで、運動を楽しみ、みんなが健康に過ごせるまち大仙にしていきたいと考え、次の2点について提案したいと思います。

一つ目は、多くの小・中学生や市民が、一流のスポーツ選手と触れ合えるイベントや講演会を多く開催すること。

二つ目は、各地区の運動施設の情報やお薦めのウォーキング、ランニングコースなどが書かれた市

民健康マップの作成・配布です。

この提案について、ご意見をお聞かせください。

○議長（渡辺奏良） 質問が終わりました。答弁をお願いします。安達生涯学習部長さん。

【生涯学習部長 登壇】

○生涯学習部長（安達成年） 大曲南中学校、小松田さん、進藤さんの質問にお答えいたします。

はじめに、一流のスポーツ選手と触れ合えるイベントや講演会についてであります。本市では一流のスポーツ選手と触れ合える場の提供として、ここらのプロジェクト「夢の教室」スポーツバージョンを毎年、小・中学校で開催しており、今年度で10年目になりました。

「夢の教室」では、Jリーガーやオリンピック出場者などのトップアスリートを夢先生として招聘し、一緒にゲームや運動などをする体験に加え、これまでの体験談等を聞くことを通じまして、夢を持つことの素晴らしさや、失敗や挫折を乗り越える心の強さ等を学ぶことができる良い機会となり、とても好評であります。

さらに、今年度は「人権ユニバーサル事業」の一環といたしまして、障がい者理解に加え、共に学び、共にお互いを認め合う児童・生徒の育成を狙いとし、視覚障がい者として、先程、質問にありました、東京パラリンピックへの出場を目指している、柔道の半谷静香選手をお招きしまして、パラリンピアン講演会を開催しております。

また、秋田県のプロスポーツ団体であります、バスケットボールの秋田ノーザンハピネッツの試合やクリニックも開催したり、現在では、サッカーのブラウブリッツ秋田によるサッカー教室を冬期間に週1回開催してございます。さらには、秋田市出身のプロ野球選手で東京ヤクルトスワローズの石川雅規投手や石山泰稚投手、千葉ロッテマリーンズの成田翔投手、横浜DeNAベイスターズの砂田毅樹投手と大仙市協和地域出身の進藤拓也投手などによる野球教室を先週1月4日に開催しました。東北楽天ゴールデンイーグルスの現役選手によります少年野球教室なども、随時開催しているところでございます。

さらに、講演会としては11月末に、競泳日本代表ヘッドコーチを務め、池江璃花子選手をはじめ、数々のトップスイマーを育てた実績を持つ、本市中仙地域出身の村上二美也氏をお迎えし、スポ少指導者や市民向けに開催したところでございます。

今後も、オリンピック・パラリンピック等の「みるスポーツ」をきっかけに、様々なスポーツ種目の一流選手と直接触れ合えるイベントや講演会を企画いたします。そして、多くの小・中学生や市民の皆様に参加していただく機会を創り出すことはもちろんですけれども、広報活動においても「知らなかった」と言われたいよう、市の広報・ホームページや学校を通じたお知らせも行ってまいりますので、皆さんも積極的にご参加くださるようお願いいたします。

次に、各地区の運動施設情報につきましては、市内全域でスポーツ・レクリエーション施設は91施設あります。その中でも主要なスポーツ施設は、市のホームページで利用時間と休館日、位置情報などを掲載しております。どうぞ、ご活用くださるようお願いいたします。

また、ウォーキング・ランニングコース掲載の市民健康マップにつきましては、「健康づくりで大仙市の魅力を再発見」をキャッチフレーズに、既にウォーキングマップとしては制作しております。現在、ホームページで公開しております。各地域ごとの魅力を自分の足で味わえるように作成したものであります。このマップには8コース設定されており、距離やおよその所要時間と歩数、消費カロリーまで示しております。健康の基本であります「歩く」ことも含め、ぜひとも活用していただきたいと思っております。

今後は、中学生が選んだ「ふるさと探訪ポケットブック」に付随しているマップのような市民健康マップも考えているところですので、中学生の皆さんからも、学校区ごとなどにお薦めのコースや様々な情報など、中学生の目線でご提案をお寄せくださいますようお願いいたします。

以上です。

【生涯学習部長 降壇】

○議長（渡辺奏良） 再質問はありませんか。

○大曲南中学校（進藤美結） はい、議長。

○議長（渡辺奏良） はい、6番、進藤さん、再質問をお願いします。

○大曲南中学校（進藤美結） 大曲南中学校の進藤美結です。再質問をします。



このような取組を行ったとしても、多くの市民への周知がなされなければ、参加率も低く、効果がないままに終わってしまいます。市報やFMはなびの活用が考えられますが、それ以外の宣伝方法としてどんなことが考えられますか。

また、中学生がお手伝いできることは何でしょうか。

○議長（渡辺奏良） 再質問に対する答弁をお願いします。吉川教育長さん。

【吉川教育長 登壇】

○教育長（吉川正一） 大曲南中学校の小松田さん、進藤さんの再質問にお答えします。

市の広報やFMはなび以外の宣伝方法については、市のホームページや口コミはもちろんですが、市民によるSNSなどによる発信も考えられますし、皆さんであれば、学校のホームページなどにも掲載していただければ、より効果的だなあとしますので、ご協力をよろしくお願いします。

さらに、複数回または複数年にわたって開催されているイベントや教室については、テレビやラジオの地域ニュースで取り上げていただいたり、それから新聞記事として掲載していただくことが、次へのステップへ進む上で有効な手段と考えておりますので、報道機関への情報提供にも努めてまいります。

また、中学生がお手伝いできることにつきましては、そのイベント内容によって異なりますが、例えば、幼児や小学生を対象としたスポーツ教室の指導補助員であったり、全国的な大会の宣伝であれば、修学旅行、それから部活動等で県外遠征などをした際、大仙市開催の大会のチラシを現地で配布してくれることも、イベントの有効なPRにつながると思います。

それらの取組がニュースとしても取り上げられると、より宣伝効果が増すものと思いますので、イベントのお手伝いや宣伝の協力を積極的に取り組んでいただきたいと思います。

よろしく申し上げます。終わります。

【吉川教育長 降壇】

○議長（渡辺奏良） これにて大曲南中学校、5番、小松田梓音さんと、6番、進藤美結さんの質問を終わります。

【大曲南中学校議員 自席へ】

○議長（渡辺奏良） 次に西仙北中学校、9番、三浦和さんと、10番、佐々木麻央さんをお願いします。

- 西仙北中学校（三浦 和） はい、議長、9番。
- 西仙北中学校（佐々木麻央） はい、議長、10番。

【西仙北中学校議員 対面式演壇に登壇】

- 議長（渡辺奏良） それでは10番、佐々木さん、質問をお願いします。
- 西仙北中学校（佐々木麻央） 西仙北中学校の佐々木麻央です。建設部に、大仙市の洪水被害に関することを質問します。



西仙北地区では、2年前の平成29年7月に大規模な豪雨による洪水に伴い、土買川や雄物川が氾濫し、今なお災害関連の工事が進められています。また、そのときの豪雨により、西仙北地区だけでなく、多くの地区が被害に遭いました。

本校では今年度実施された大仙市総合防災訓練に参加し、私たちは避難所開設訓練を行いました。これは、本校付近の浮島・田屋地区の集中豪雨による浸水を想定し、避難場所である本校の体育館に避難者スペースを作るという訓練です。また、当日開催された防災フェアでは、自衛隊や消防署、電力会社や情報機器会社などの展示や体験コーナーにおいて、災害時にはどのように行動するべきか、具体的にお話を聞くことができました。

このような活動を通して、私たちは防災の大切さを改めて実感し、自分たちが住んでいるまちを災害から少しでも守りたいという気持ちを、さらに高めることができました。

これから先、ふるさとを守っていくのは中学生の役目でもあります。そのため、今以上に自分たちのふるさとを知っておくことが大切だと考えています。

そこで、2年前の洪水被害における工事を行っていますが、この工事の完成によって西仙北地区及び協和地区の洪水被害が、どの程度軽減されると期待されているのか、お聞きしたいと思います。

次に、私たち中学生が考えた提案についてです。

私たちが必要だと感じていることは、災害が起きた場合のサイレン等の実施と避難経路の表示です。サイレン等の実施は、災害が起きたことを一斉に住民へ知らせることができます。特に夜間、睡眠中に逃げ遅れることがないように、全員に知らせるために必要であると思いました。

また、避難経路については、災害時の対応としてハザードマップがありますが、手元の地図だけだと分かりづらい点もあるのではないかと思います。特に、刈和野は細い道がたくさんあり、入り組んでいますので、災害時の避難経路が街の中に実際に表示されていることが、大切な命を守る上で有効なのではないかと考えました。

この提案について、実現可能かどうかを教えてください。よろしくをお願いします。

- 議長（渡辺奏良） 質問が終わりました。答弁をお願いします。<sup>ふるや</sup>古屋建設部長さん。

【建設部長 登壇】

- 建設部長（<sup>ふるやとしひこ</sup>古屋利彦） 西仙北中学校、三浦さん、佐々木さんの質問にお答えします。

質問の洪水被害についてであります。はじめに、堤防工事の完成による西仙北・協和地域の洪水被害の軽減につきましては、市内には138河川、延べ762.1キロメートルの河川がありますが、この河川を国・県・大仙市のおのおのが管理を分担しております。現在、西仙北地域及び協和地域では、国が管理する「雄物川」及び県が管理する「土買川」並びに「淀川」において、堤防のない区間では堤防を造り、堤防の低い区間ではさらに堤防を高くする工事を実施しており、雄物川は令和4年度、土買川及び淀川については、令和2年度の完成を目指しているところであります。

工事の完成により、平成29年7月程度の豪雨が再び降ったとしても、河川から水があふれ出る、または堤防を越えて流れ出ることを防げるようになり、河川沿いに建つ多くの家屋の被害が軽減されるものと期待しております。

しかしながら、市内には工事中の河川の他にも多くの河川があり、降り続いた雨が河川に流れ出る前にとどまって増水する、これを「内水被害」といいますが、この内水被害の恐れもあることから、全ての浸水被害を解消するには至っておりません。

このため、市では、被害を最小限度にとどめられるようポンプによる排水作業の実施と併せて、市民の安全確保のため、早めの避難指示・支援・誘導を行っております。

次に、サイレンの設置につきましては、ご質問にもありましたとおり、市でも、災害時に市民全員へ確実に避難情報をお伝えすることは非常に重要であると認識しております。

サイレンの設置のご提案につきましては、サイレンはスイッチを押すだけで危険をお知らせすることができるため、以前より火災やダムの緊急放流を伝達するために整備しており、西仙北地域では、現在5カ所に設置しております。しかしながら、サイレンは「なぜ、鳴っているのか分からない」、また「大雨時は聞こえない」などの声もあることから、緊急時は様々な情報伝達手段の一つとして活用してまいりたいと考えております。

この他、市では、市民の様々なニーズに対応するため、災害時に複数の手段を活用し情報を配信する「情報伝達手段の多重化」に取り組んでおります。具体的には「テレビテロップへの配信」や「防災ラジオ」、市の登録制携帯メール「防災ネットだいせん」、携帯アプリの「ヤフー防災」、市の「ホームページ」「SNS」「自主防災組織への電話」などを活用し、「今、どこで、何が起き、何をすればいいのか」という、よりリアリティある避難情報や災害情報を発令することとしております。

次に、災害時の避難経路を表示することにつきましては、一般的には、電柱などに避難する方向を矢印などで示すことにより、スムーズな避難の一助になるものと思いますが、複数の河川に囲まれた地区では、氾濫する川により逃げる方向が変わったり、水害と地震では避難先が変わる地区もあることから、大仙市では、まだ対応が進んでいない状況であります。

その対策といたしまして、市では、災害時の逃げ遅れゼロを目指し、各町内ごとの自主防災組織で、市のハザードマップには記載されていない身近な危険箇所や災害時の集合場所、避難経路などのほか、避難行動要支援者の誘導方法など、地区ごとのルールを住民の皆さんが相談しながら作る、オリジナルの「地区防災マップ」の作成を支援しております。

今後も市内全域での作成を目指し、力を入れて推進してまいりたいと考えております。

以上です。



#### 【建設部長 降壇】

○議長（渡辺奏良） 再質問はありますか。

○西仙北中学校（三浦 和） はい、議長。

○議長（渡辺奏良） はい、9番、三浦さん、再質問をお願いします。

○西仙北中学校（三浦 和） 西仙北中学校の三浦和です。再質問をします。

避難経路を作成する場合、何か私たち中学生にできることはありますか。西仙北で生まれ育った私たちですので、災害発生時にどの道が安全なのか、危険になりうるのはどのような場所なのかなど、知っていることは多いと思います。

中学生の立場でお力になれば幸いです。よろしくお願いします。

○議長（渡辺奏良） 再質問に対する答弁をお願いします。佐藤副市長さん。

【佐藤副市長 登壇】

○副市長（佐藤芳彦） 西仙北中学校の三浦さん、佐々木さんの再質問にお答えを申し上げます。

ただ今の貴重なご意見をいただきました。大変心強く思っております。ありがとうございます。

先程、ご答弁で申し上げました、現在、市で作成支援に力を入れております「地区防災マップ」につきましては、避難経路や日頃からそこに住んでいるからこそ感じる身近な危険などを、住民の皆さんで相談して作っていただくものであります。各町内単位などで組織されます自主防災組織が主体となって作成しており、西仙北地域では現在54の自主防災組織がありますが、完成したところは5組織しかない状況でございます。

「地区防災マップ」作成への取り組みにつきましては、組織によってはまだ進んでいない地区もあります。市では、地区防災マップ作成のためのマニュアルも用意しておりますので、皆さんで日頃から感じる危ない箇所や注意が必要な箇所などを考慮した避難経路を作製していただければ、各地区でのマップに反映できるよう、それぞれの自主防災組織へ働き掛けてまいりたいと思います。

また、学校への出前講座で、その作製の指導やアドバイスもしてまいりたいというふうに考えております。市でも、中学生の皆さまからそのような積極的なご意見があることを自主防災組織にお知らせをしながら、全市で作製が進むよう、きっかけとなるよう取り組んでまいりたいと思いますので、どうかよろしくお願いします。

以上であります。

【佐藤副市長 降壇】

○議長（渡辺奏良） これにて西仙北中学校、9番、三浦和さんと、10番、佐々木麻央さんの一般質問を終わります。

【西仙北中学校議員 自席へ】

○議長（渡辺奏良） 一般質問の途中ですが、暫時、休憩いたします。

再開時刻は午後2時35分といたします。

午後2時19分 休 憩

午後2時35分 再 開

○副議長（鎌田粹人） 休憩前に引き続き、会議を開きます。



議長に代わり、議事を進行します、副議長の協和中学校の鎌田粹人です。

○副議長（堀田 龍） 同じく、堀田龍です。

○副議長（鎌田粹人） よろしくお願いいたします。一般質問を続けます。

次に中仙中学校、11番、長澤晃汰さんと、12番、佐々木くくみさんをお願いします。

○中仙中学校（長澤晃汰） はい、議長、11番。

○中仙中学校（佐々木くくみ） はい、議長、12番。

【中仙中学校議員 対面式演壇に登壇】

○副議長（鎌田稔人） それでは11番、長澤さん、質問をお願いします。

○中仙中学校（長澤晃汰） 中仙中学校の長澤晃汰です。市民部に、食品ロスへの取組について質問します。



農林水産省及び環境省の平成28年度の推計によれば、日本では年間2,759万トンの食品廃棄物が出されており、そのうち、食品ロスは643万トンに上るとのことです。

市のホームページにもこのことが記載されており、この問題に対して「食べきり協力店」という取組が紹介されています。食品ロスの削減に取り組む飲食店等を「食べきり協力店」として登録し、ステッカーでそのことを店舗に明示できるものです。食品ロスの削減に向けて有意義な取組だと思いますが、小・中学生の食品ロスへの意識向上も大切だと思います。小・中学生も、外食をした際に食べ物を残したり、部活動での遠征や行事で出された食事を残したりする場面があります。

食について、中学校でも学習する場面がありますし、給食の残量調査をすることもあります。例えば、中仙中学校の給食の残量を4月から1カ月ごとにまとめたデータでは、一月当たり平均で416キロもの残量があったことが記録されています。各校も同じような状況だと推測されます。

そこで提案ですが、市のこの取組を小・中学生に向けてもっとPRしてはどうでしょうか。各校の生徒会や給食委員会などが、市の取組につなげた活動を取り入れるようになれば、大仙市民へのアピール度がより向上すると思います。

この提案について、今後の計画を教えてください。

○副議長（鎌田稔人） 質問が終わりました。答弁をお願いします。加藤市民部長さん。

【市民部長 登壇】

○市民部長（加藤博勝） 中仙中学校、長澤さん、佐々木さんの質問にお答えいたします。食品ロスは、主に「食べ残し」や「賞味期限切れで廃棄してしまうもの」「調理の際に食べられる部分を過剰に捨てているもの」などにより発生いたします。また、発生する場所については、飲食店やスーパー、家庭、食品製造工場など様々な場所が挙げられます。このように発生場所及び発生原因が多岐にわたることから、食品ロスの削減を推進するためには、多角的な対応策を講じる必要があると認識しております。

今年度大仙市では、食品ロスに関する市民向けの講演会、広報でのPR、スーパーの店頭での啓発キャンペーン、そして食べきり協力店登録制度の開始など、様々な取組を実施しております。こうした市の取組は、令和2年度以降も積極的に実施して、より多くの市民に働き働き掛けてまいります。

ご提案の小・中学生に向けたPRにつきましては、食品ロスの削減について、関心と理解を深めていただくためには非常に重要なことと思います。市では平成25年度から、年に7校ずつ、小学校に出向いて環境学習事業を行っており、大仙市におけるごみの分別やリサイクルに関連したお話しをするほか、平成29年度からは、食品ロスの問題についても取り上げております。

今後は、学校や教育委員会と連携を取りながら、食べきり協力店登録制度など、市の取組の紹介も盛り込んだ環境学習事業を小学校だけではなく、中学校においても計画的に実施し、小・中学生が食品ロスの削減に取り組むきっかけづくりを行ってまいりたいと思います。また、食品ロスは家庭内からも多く発生することから、この問題について家族で会話することで地域にも広がり、全体の意識向上につながると思いますので、小・中学生の皆さんには、家庭で食卓を囲みながら、食品ロス

の問題について話題を提供していただければと思います。

以上です。

**【市民部長 降壇】**

○副議長（鎌田稔人） 再質問はありませんか。

○中仙中学校（佐々木くくみ） はい、議長。

○副議長（鎌田稔人） はい、12番、佐々木さん、再質問をお願いします。

○中仙中学校（佐々木くくみ） 中仙中学校の佐々木くくみです。再質問をします。



私たち小・中学生も、食品ロスの削減に向けて取り組むことが大切だと思います。そのためには、中学生サミットで、環境問題への取組の一つとして取り上げることが有効であると考えます。そして、私たちの活動をサミット通信や学校・市のホームページに発信することにより、市民の皆さんをはじめ、事業者の皆さんにも小・中学生の関心の高まりを知っていただけたと思います。

このことは、大仙市の食品ロス削減に関する取組に、私たち小・中学生が参加することにもなりますし、他市町村へのPRにもつながると思います。

このように、小・中学生も中学生サミットを通じて、食品ロスの削減に向けて取り組んでいきたいと考えますが、いかがでしょうか。

○副議長（鎌田稔人） 再質問に対する答弁をお願いします。西山副市長さん。

**【西山副市長 登壇】**

○副市長（西山光博） 中仙中学校の長澤さん、佐々木さんの再質問にお答えします。

「中学生サミット」において食品ロス削減を一つのテーマとして取り上げていただき、実際に小・中学校の生徒の皆さんが取り組んだ成果を、サミット通信や学校のホームページで情報発信されることは、活動を知った市民及び事業者の意識の向上につながる素晴らしい取組であると考えます。

小・中学生の皆さんが自ら、自分たちでできる事を考え、食品ロス削減に取り組まれた内容につきましては、市でも、食べきり協力店への周知や未登録店へのPR、また、ホームページなどを通して、広く市民の皆さまに発信してまいりたいと考えておりますので、ぜひ、小・中学生の皆さんからも積極的に取り組んでいただきたいと思います。

以上です。

**【西山副市長 降壇】**

○副議長（鎌田稔人） これにて中仙中学校、11番、長澤晃汰さんと、12番、佐々木くくみさんの一般質問を終わります。

**【中仙中学校議員 自席へ】**

○副議長（鎌田稔人） 次に豊成中学校、13番、高橋希月<sup>たかはしいつき</sup>さんと、14番、佐々木葵<sup>ささきあおい</sup>さんをお願いします。

○豊成中学校（高橋希月） はい、議長、13番。

○豊成中学校（佐々木葵） はい、議長、14番。

**【豊成中学校議員 対面式演壇に登壇】**

○副議長（鎌田稔人） それでは13番、高橋さん、質問をお願いします

○豊成中学校（高橋希月） 豊成中学校の高橋希月です。教育指導部へ、豊成中学校跡地の活用方法についての質問です。



私たちの通う豊成中学校は来年度以降の閉校が決まっていますが、現在のところ、「閉校後に、どのように豊成中校舎が使用されることになるのかは、まだ決まっていない」と伺いました。また「地域から学校が消えると、どうしても地域の雰囲気が暗くなるのではないか」という心配の声も周囲から聞こえてきています。

現在、豊成中学校のグラウンドの周りには、これまで本校で取り組んできた「森林環境学習」の一環で植樹された桜の木が、合計50本植えられています。年を追うごとに少しずつ大きくなっていくその苗木の成長を、植えた私たちも楽しみにしています。また、豊成中学校グラウンドのすぐ隣には中仙東保育園があり、植樹は毎年、園児たちと一緒にしてきました。

た。

そこで、空き校舎を利用して、小・中・高生と地域の方が関わり合えるような場所づくりを行うのはいかがでしょうか。校舎やグラウンドを公園のようにどの年代の人でも気軽に利用できる場所にする事で、新たな活気やにぎわい、交流が生まれるきっかけになるのではと考えます。

また、敷地内に遊具などがあれば、小学生に加え園児も遊びに来てくれて、にぎやかな場所になり得るのではないのでしょうか。

この提案について、現状と今後の計画を教えてください。

○副議長（鎌田稔人） 質問が終わりました。答弁をお願いします。佐藤教育指導部長さん。

【教育指導部長 登壇】

○教育指導部長（佐藤英樹） 豊成中学校、高橋さん、佐々木さんの質問にお答えします。

質問の、豊成中学校跡地の活用方法についてであります。本市ではこれまでに、平成20年度に協和地域、平成24年度に神岡地域・西仙北地域・南外地域の学校統合を行っております。その結果、現在10校の廃校施設があります。

これらの施設がどのように活用されているのか、主な例を紹介しますと、市の公共施設として活用した例としましては、公文書などを収集・保管することなどを目的とした「大仙市アーカイブズ」、市民に音楽活動の場を提供することを目的とした「音楽交流館」、新しく農業を始めようとする方々が研修するための「新規就農者研修施設」、このほか、市民体育館や市の倉庫などに活用しています。市の公共施設以外に活用している例としましては、地元の市民団体が自主的に運営するコミュニティ施設や企業・農事組合法人の工場として活用している例が挙げられます。

このように、廃校施設の活用状況は多岐にわたっておりますが、それぞれが有効に活用されています。

皆さんの豊成中学校の施設の活用方法につきましては、現時点では未定ですが、ご提案の、地域の世代間交流施設も有効な活用策の一つであると思います。私たちも廃校施設を有効活用することにより、地域が元気になれば、喜ばしいことと考えております。

今後、皆さんの提案も含め、市の公共施設としての利用価値の有無、また、地域あるいは企業等からの要望の有無やその内容、さらには、現在利用されている他の施設との関連を踏まえ、市や地域にとってどのような利活用が良いのかを総合的に判断し、検討してまいりたいと考えております。

以上であります。

【教育指導部長 降壇】

○副議長（鎌田稔人） 再質問はありませんか。

○豊成中学校（佐々木葵） はい、議長。

○副議長（鎌田稔人） はい、14番、佐々木さん、再質問をお願いします。

○豊成中学校（佐々木葵） 豊成中学校の佐々木葵です。再質問します。



廃校後もある程度の活気を維持するためには、やはり定期的な利用の機会や、地域の方々が足を運びたいと思えるきっかけがあることが重要であると考えます。

そこで、将来的には、公民館行事、地区民運動会など、地域行事の拠点として活用してくださるようお願いします。

○副議長（鎌田稔人） 再質問に対する答弁をお願いします。吉川教育長さん。

【吉川教育長 登壇】

○教育長（吉川正一） 豊成中学校の高橋さん、佐々木さんの再質問にお答えします。

豊成中学校の校舎やグラウンドには、皆さんばかりではなく、卒業生や地域の方々の、たくさんの思い出が詰まっていると思います。そういった校舎、グラウンドの有効な活用の選択肢の一つとしては、先程の答弁にもあったとおり、地元の方々が運営するコミュニティ施設として活用している例が挙げられます。現在でも、旧南外西小学校の校舎は、南外地域に住む皆さんが主体となって管理し、社会教育活動や社会体育活動などに利用されておりますので、この取組が参考になろうかと思えます。

いずれ、「分館祭り」や「地区民運動会」などの地域行事の開催に当たっては、豊成中学校の校舎やグラウンドの活用も想定されますが、「森林環境学習」と併せ、これらのことについて、この後、中仙公民館や地域の分館と連携しながら、その在り方について検討してまいりたいと思います。

豊成中学校の二人の質問者からはですね、地域を少しでも盛り上げていこうとする姿勢が伝わってきました。大変うれしく思っております。現在、中仙地域の学校統合に向けて様々な準備が進められておりますが、いつまでも「ふるさと豊成を大切にする思い」、その心を忘れずに、これからも地域を盛り上げていってほしいなあと思っております。

よろしくをお願いします。終わります。

【吉川教育長 降壇】

○副議長（鎌田稔人） これにて豊成中学校、13番、高橋希月さんと14番、佐々木葵さんの一般質問を終わります。

【豊成中学校議員 自席へ】

○副議長（鎌田稔人） 次に南外中学校、17番、伊藤碧那さんと、18番、今野咲希さんをお願いします。

○南外中学校（伊藤碧那） はい、議長、17番。

○南外中学校（今野咲希） はい、議長、18番。

【南外中学校議員 対面式演壇に登壇】

○副議長（鎌田稔人） それでは17番、伊藤さん、質問をお願いします。

○南外中学校（伊藤碧那） 南外中学校の伊藤碧那です。経済産業部に、大仙市の特産品を生かした地

域活性化について質問をします。



大仙市には、大曲の花火をはじめ、伝統行事や見どころ、特産品が多くあります。私たちの南外地域にも、檜岡焼や清酒出羽鶴、ほほえみカボチャなどの特産品と呼べるものがあります。

大仙市の将来都市像を実現する施策の柱の一つに、「魅力ある産業のまち創り」があります。地域の特産品を生かした地域活性化の取組に、私たち小・中学生が関わることはできないかと考え、次の二つを提案します。

まず、大仙市に住む人が地域への愛着をより一層深め、子どもを含めた地域活性化への気運を高めるために、その特産品やパッケージ等のデザインに、小・中学生のアイデアを取り入れてはどうでしょうか。南外地域の小・中学生は毎年、檜岡焼体験を行っています。この体験を生かし、デザインを提案することができます。小・中学生が参加することにより、地域へ関心を持つ機会になるのではないのでしょうか。ちなみに、このキャラクターは、南外のキャラクター「<sup>なん</sup>南ちゃん」です。昨年の地域祭で、小・中学生のアイデアから選ばれました。このキャラクターは、地域の方が実際に投票したもので、たくさんの人に愛されています。小・中学生のアイデアを活用することで、市内外の小・中学生の世代やその親世代にも関心をもってもらえるのではないのでしょうか。

また、特産品を通して地域に興味をもってもらうために、特産品を使った料理のレシピや説明カードを作成し、その裏に地域紹介や行事等の情報も載せて、商品に添えてはいかがでしょうか。これは、ほほえみカボチャを使った料理のレシピカードです。そして裏には、昨年の大仙市の行事を載せています。レシピカードに大仙の見どころや行事についての情報を付けると、地域に興味をもち、一度足を運んでもらえるかもしれません。そして、良さを知ることにより、リピーターになってもらえる可能性があります。

以上、二つの提案について、市としてのお考えを教えてくださいませんか。

○副議長（鎌田稔人） 質問が終わりました。答弁をお願いします。高橋経済産業部長さん。

【経済産業部長 登壇】

○経済産業部長（高橋正人） 南外中学校、伊藤さん、今野さんの質問にお答えします。

はじめに、特産品やパッケージのデザインについてであります。ただ今、一例として挙げていただいた、県を代表する陶器である檜岡焼、県内最多七つの酒蔵を有する地酒、恵まれた自然に培われた米をはじめとする農産物など、各地域に豊富な特産品があることは本市の大きな魅力であります。

また、市内の食品関連事業者と地場産の農水産物を原料としたお土産商品の開発にも取り組んでおり、平成30年4月より「秋田・大仙 せんのぜん」ブランドとして商品化しております。これらの商品は、統一したロゴデザインによるパッケージで既存の商品に一工夫を加え、プレミアム感を持たせたものであります。

こういった特産品につきましては、これまでも県内外での観光・物産販売イベント等における販売や、各種媒体によるPRを実施してまいりましたが、常識にとらわれない新たな視点で売り込むことの必要性は感じております。

そのようなことから、ご提案いただきました特産品やパッケージに小・中学生のアイデアを取り入れることは、大人と異なる若い発想による斬新な商品が生み出されるのではないかと期待されるとともに、市内各地域の様々な特産品を内外へPRするために、とても効果的であると思われま

公募等の具体的な手法につきましては、今後、検討させていただきますが、実際に生産や販売を行っている事業者の意見も聴きながら、実現に向け、取り組んでまいりたいと考えております。

次に、特産品を使った料理のレシピカードと情報の紹介についてですが、市では毎年10月、秋の稔りフェアにおいて、野菜ソムリエによる地域特産野菜の試食コーナーを設置し、キャベツや大根など、来場者にその年のテーマである大仙市産の秋野菜を材料とした料理を試食いただくとともに、レシピを書いた用紙を配布しております。

秋の稔りフェアは、例年3万人の来場者が訪れる市をあげての秋の一大イベントです。伊藤さん、今野さんの提案を活用させていただき、来年にでも、カードとしてレシピの裏面に大仙の見どころや行事の情報を記載し、来場する市内外のお客さまに大仙市の良さをアピールしてまいります。

以上です。

#### 【経済産業部長 降壇】

○副議長（鎌田稔人） 再質問はありますか。

○南外中学校（今野咲希） はい、議長。

○副議長（鎌田稔人） はい、18番、今野さん、再質問をお願いします。

○南外中学校（今野咲希） 南外中学校、今野咲希です。再質問をします。



実際に小・中学生が関われる特産品には、どのような物がありますか。また、特産品ではありませんが、農業法人等で作っている野菜や果物にも小・中学生が関わることはできないでしょうか。

○副議長（鎌田稔人） 再質問に対する答弁をお願いします。老松市長さん。

#### 【老松市長 登壇】

○市長（老松博行） 南外中学校、伊藤さん、今野さんの再質問にお答えいたします。

小・中学生の皆さんが関われる特産品や農業法人等で作っている野菜や果物との関わりについてということですが、先程の答弁でも申し上げましたとおり、橿岡焼を代表する工芸品や、あきたこまちや枝豆などの農産品、いぶりがっこをはじめとする農産加工品など、様々な特産品がありますが、実際に皆さんが関わるためには、まずは総合的な学習の時間などを活用していただきまして、生産者のお話を聞くなど、特産品の伝統や生産過程を学習していただくことが第一歩というふうに考えます。

また、グリーンツーリズムに取り組む農業者から構成される「大仙市都市農村交流推進協議会」では、毎年、市内の小中学生の皆さんを対象として、農作業の大切さや収穫の喜びを体験していただくなど、「グリーンツーリズム in 大仙」を開催しております。

さらに、中学生の皆さんには、職場体験授業やふるさと博士事業を通して、農業法人等で農業体験をしていただくことができます。農業者や季節によって野菜や果物、特産品等の作物は異なりますが、これらの機会を活用し、まずは大仙市の農業に触れていただき、興味を持っていただきたいと、さらに興味を持っていただきたいというふうに思います。

そして今回、ご提案いただきましたパッケージのデザインなどのアイデア、また、料理のレシピカードなどにつきましても、さらなるご提案をしていただければというふうに期待しております。どうぞよろしくお願いいたします。

#### 【老松市長 降壇】

○副議長（鎌田稔人） これにて南外中学校、17番、伊藤碧那さんと、18番、今野咲希さんの一般質問を終わります。

【南外中学校議員 自席へ】

○副議長（鎌田稔人） ここで、議事の進行を堀田龍さんと交代するため、暫時、休憩いたします。  
午後3時6分 休 憩

午後3時6分 再 開

○副議長（堀田 龍） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

ここからの議事を進行します、協和中学校の堀田龍です。よろしく願いいたします。  
一般質問を続けます。

次に仙北中学校、19番、小林聖侑<sup>こばやしせいゆう</sup>さんと、20番、富樫怜未<sup>とがしれいみ</sup>さんをお願いします。

○仙北中学校（小林聖侑） はい、議長、19番。

○仙北中学校（富樫怜未）。はい、議長、20番。

【仙北中学校議員 対面式演壇に登壇】

○副議長（堀田 龍） それでは19番、小林さん、質問をお願いします。

○仙北中学校（小林聖侑） 仙北中学校の小林聖侑です。生涯学習部に、郷土料理や体験活動を取り入れた文化財の有効利活用と、世界への情報発信について質問します。



第2次大仙市総合計画基本構想には四つのキーワードがあり、その一つに「大仙らしさの活用」があります。しかし、仙北地域を代表とする文化財の旧池田氏庭園や、国史跡<sup>ほった</sup>弘田の柵に足を運んでくれる人の数は決して多くはなく、その活用はまだ不十分ではないかと思えます。

文化財保護課の統計資料を見ると、旧池田氏庭園の平成30年度入場者数は、開園期間の5月から11月までの入場者数は、合計で1万4,075名でしたが、今年度は同期間で1万915名となり、前年比3,160名の減少でした。また、弘田の柵の来場者数は、平成30年度4月から11月までで1万3,586名でしたが、今年度は同期間で1万409名になり、前年比3,177名の減少でした。このことから、

両施設ともに観光的魅力が付加されておらず、PR不足と言わざるを得ません。

私たち仙北中学校では毎年、国指定名勝旧池田氏庭園のガイドボランティアを行っています。今年も2年生約60名が11月3日にたくさんのお客様を案内し、好評をいただきました。また、1年生は8月15日に弘田の柵を会場に行われた夏祭り彩夏せんぼくの平安行列に協力させていただき、多くのお客様に平安の雰囲気を感じてもらいました。

旧池田氏庭園や弘田の柵は、大仙市の歴史が詰まった素晴らしい文化財でもあり、多くのお客様に足を運んでいただきたい場所でもあります。

そこで、大仙市の文化財である旧池田氏庭園や弘田の柵を有効利活用するために、旅の三大要素を充実させなければならないと考えました。旅の三大要素とは「見て楽しむ観光」「食べて楽しむ観光」「遊び・体験して楽しむ観光」です。

第一に「見て楽しむ観光」の充実とは、お客様に見ていただくためには「見せるための工夫」が必要です。観光ガイドボランティアによる説明や観光案内板の設置にとどまらず、当時の暮らしが再現

されていたり、想像を膨らませられたりするような展示、見せ方が重要です。私たちは、ガイドボランティアの活動の中で明治・大正時代の野良着を着せてもらい、作業をさせてもらいました。これは、当時の暮らしの一部が再現される活動であり、想像を膨らませる企画となりました。しかし、全体的には不十分に感じました。

第二は「食べて楽しむ観光」の充実です。全国各地の観光地にはその土地のおいしいものやお土産品が必ずあります。しかし、旧池田氏庭園と払田の柵にはこれといったものはまだありません。季節を感じられる郷土料理や名物料理の提供、土産物の商品開発と販売が欠かせません。例えば、春には山菜、仙北特産のアスパラを使った料理や加工品、夏には、県内有数の産地になっている大仙市のえだまめ、秋には、新米の秋田こまちや天然きのこ、秋野菜のガッコ、冬には鍋物や様々な具材の入った寒天文化でお迎えができるのではないのでしょうか。また、食のお土産は、大仙市の経済を発展させるためにも重要です。仙北には餅の館があり、食文化としての餅を紹介しています。餅を使った独創的で魅力ある商品を開発し、文化財を見学された方はもちろん、花火や観光で秋田を訪れた多くの人に販売し、大仙市の魅力を伝えたいと思います。

第三は「遊び・体験して楽しむ観光」の充実です。池田氏は、かつてこの場所で味噌を自家製造していました。オリジナル味噌造り体験や田植え、稲刈り体験をはじめとした収穫体験と餅つき体験などは、アグリツーリズムの観点からも都会の人から見れば魅力があると思います。仙北太鼓をはじめとした郷土芸能体験に興味を持たれる人も多いはずです。また、払田の柵の発掘調査からは、祭祀跡が確認されています。ここからは様々な土器や木製品が発掘され、1200年前の人々の暮らしや心を感じることができます。この祭祀を現代版にして楽しめるような企画をしたらどうでしょうか。現代人にも様々な願いがあり、祭祀風にして願いをかなえるための体験を計画したらどうでしょうか。

素晴らしい文化財は、大仙市内の他の地域にもあります。その素晴らしい文化財を生かすため、郷土料理の提供と楽しめる体験活動をコラボさせることを提案したいと思いますが、大仙市のお考えをお聞かせください。

○副議長（堀田 龍） 質問が終わりました。答弁をお願いします。安達生涯学習部長さん。

【生涯学習部長 登壇】

○生涯学習部長（安達成年） 仙北中学校、小林さん、富樫さんの質問にお答えします。

まず最初に、様々な文化財事業につきまして、仙北中学校の皆さんからはお手伝いいただきまして、本当にありがとうございます。

質問の、郷土料理や体験活動を取り入れた文化財の有効利活用と世界への情報発信についてですが、例えば、旧池田氏庭園では、現在、演奏会やライトアップ、餅つき体験や古写真の展示などの企画を、また、払田柵跡では年度別の企画展のほか、古代の衣装の体験コーナーを設けております。記念撮影などで講評をいただいております。このほか、夏休みの期間中には、火おこし体験や勾玉づくりの体験なども実施しております。

しかしながら、旧池田氏庭園や払田柵跡では入場者数の減少が生じており、ご指摘のように、さらなる工夫が必要であると考えております。ご提案の郷土料理や体験活動の提供については、現在、仙北地域の女性の方々に組織されております「さくまる会」がごございます。さくまる会が餅の文化の継承や伝統料理の講習会などを行っておりますので、今後、手作りのきりたんぽを使った囲炉裏端での味噌たんぽ体験のほか、池田家で栽培してごございます地元産の大豆を使った豆腐の手作り体験や寒天づくりなどを、このさくまる会の皆様と協力しながら、企画の検討を進めてまいりたいと思います。ぜひ、市内の中学生の皆様からも、実現に向けたモニター体験などをご協力いただければ幸いです。

お土産の販売については、先程、経済産業部長が南外中学校さんに答弁した中にもありましたけれども、現在、プレミアム感を持たせたお土産商品の新たなブランド「秋田・大仙 せんのぜん」を立ち上げ、商品開発に取り組んでおります。この中には玉川のサケを薫製にした商品や、地域の伝統菓子など様々な商品を販売しておりますが、餅の食文化などをはじめ、今回ご提案いただいたものを参考にしながら、今後も新しい商品を増やし、お土産品としての定着を目指してまいります。

農作業体験や収穫体験については、郷土料理の体験と組み合わせた企画を検討いたします。また、ご提案いただいた太鼓の体験については、仙北ふれあい文化センターを中心として活躍してございます「仙北太鼓」の協力をいただきながら実現が可能と思われまますので、払田柵跡などで実施している古代の体験コーナーなどと組み合わせることで検討してまいりたいと思います。さらには「柵の湯」などでの宿泊と合わせ、可能であれば、雪国の暮らし体験を含めた通年のパッケージ型の体験企画の実現に向け、仙北支所 地域活性化推進室と連携しながら、今後、具体的な検討を進めてまいります。

ご指摘の、見る・食べる・体験するといった観光の三大要素は、インパクトがありますので、今後の交流人口・関係人口の拡大を目指し、観光的な魅力を持たせた企画の実施に向け、努力してまいります。

文化財の利活用については、保護はもちろんでございますが、文化庁をはじめとして、現在では、広く活用することの重要性が唱えられております。今後も、文化財を活用した本市の地域活性化に向けた企画のご提案を、中学生の皆様からもお寄せいただきますようお願いいたします。

以上でございます。

#### 【生涯学習部長 降壇】

○副議長（堀田 龍） 再質問はありますか。

○仙北中学校（富樫怜未） はい、議長。

○副議長（堀田 龍） はい、20番、富樫さん、再質問をお願いします。

○仙北中学校（富樫怜未） 仙北中学校の富樫怜未です。情報発信と人の交流について再質問をします。



大仙市をPRするには、SNS、ツイッター、フェイスブック等の活用が重要かと思えます。大仙市のホームページを見ると、観光文化・花火の項目に「払田の柵」と「旧池田氏庭園」がありますが、紹介するチラシと地図など概要となるものが中心で、全体的に印象は弱いような気がします。

そこで、これらの内容に加え、季節ごとに日々変化する旧池田氏庭園と払田の柵、季節ごとの郷土料理をインターネット等で紹介してはどうでしょうか。これらにアップすることで、その視聴者は世界に広がります。市民の皆様からも協力いただくことで、最新の情報を提供することができまますし、年中更新でき、その美しい風景を毎日世界に発信することが可能になります。それぞれの情報には、消えゆく秋田弁を採用したり、めんこ

いもの・おいしいものをキーワードに掲載したりすることでフォロワーの増加を狙い、世界中からアクセスしてもらえるような情報発信を提案します。

○副議長（堀田 龍） 再質問に対する答弁をお願いします。吉川教育長さん。

#### 【吉川教育長 登壇】

○教育長（吉川正一） 仙北中学校の小林さん、富樫さんの再質問にお答えいたします。

質問の、情報発信と人との交流についてであります。現在、本市ではSNSを利用した情報発信の取組として、これまでホームページや大仙市公式フェイスブックの開設、また、昨年度からはイン

スタグラムアカウントを開設したほか、現在、「ぐるっと大仙デジタルスタンプラリー」を実施中で、インターネットを利用して世界中に発信しながら、大仙市のPR強化に努めているところであります。

文化財の活用の関係では、昨年4月から文化財保護課の公式ツイッターを開設しておりますが、今後、ご提言いただいた美しい風景に加え、秋田弁、郷土料理などの味覚、さらに、若い方にも興味をもっていただける画像の使用など、さらに工夫して、加えてまいりたいと思います。

また、払田柵跡と旧池田氏庭園では、外国人の観光交流の推進に向け、QRコードを利用したスマートフォン利用による外国語案内について、新年度の導入に向け、現在、準備を進めております。

このほか、フェイスブックやツイッターなどSNSの活用は、早急の課題であり、本市でも各部所において、順次取り組みを進めております。

中学生の皆様には、地域の歴史や文化に親しんでいただき、ふるさと博士のみならず将来は、大仙市の魅力を発信していただく、観光大使としても活躍してくださることを期待しております。

以上です。

【吉川教育長 降壇】

○副議長（堀田 龍） これにて仙北中学校、19番、小林聖佑さんと、20番、富樫怜未さんの一般質問を終わります。

【仙北中学校議員 自席へ】

○副議長（堀田 龍） 次に太田中学校、21番、<sup>みうら ちたか</sup>三浦千隆さんと、22番、<sup>たかしな さえ</sup>高階冨さんをお願いします。

○太田中学校（三浦千隆） はい、議長、21番。

○太田中学校（高階 冨） はい、議長、22番。

【太田中学校議員 対面式演壇に登壇】

○副議長（堀田 龍） それでは、21番、三浦さん、質問をお願いします。

○太田中学校（三浦千隆） 太田中学校の三浦千隆です。農林部に、大仙市の農業の活性化について質問します。



大仙市内の田んぼを見ると、稲が植えられていない田んぼをよく見かけます。また、このような田んぼは荒れていて、何かに利用されているようには見えません。大仙市のデータは見付けることができませんでしたが、秋田県全体の2015年の耕作放棄地は9,590ヘクタールもあり、これは潟上市の面積にほぼ匹敵する面積になります。これからは大仙市や秋田県内だけでなく、日本全体でもこのように耕作されず、所有者も分からないような土地が増えていくのではないかと心配になります。

また、この問題には、少子高齢化などの様々な問題が関わっていると思われます。そのため、簡単な解決策はないのかもしれませんが、使われなくなった土地をできるだけ有効活用し、大仙市や秋田県の農業をより活性化させることは可能なのではないのでしょうか。

そこで、私たちは耕作放棄地の活用方法として、次の三つを提案いたします。

一つ目は、耕作放棄地に曲がりねぎや枝豆などの、その地域の特産物の栽培を奨励し、補助金を出す。

二つ目は、農業高校や企業などに耕作放棄地を貸したり寄附したりして、そこで作られた米などをブランド化し、大々的に宣伝・販売する。

三つ目は、耕作放棄地を活用し、田植えや稲刈り体験などを含む、より魅力ある滞在型の農業体験ができる「アグリツーリズム」をより一層推進し、県外や海外からの観光客を増やす。

この三つの提案について、現状と今後の計画を教えてください。

○副議長（堀田 龍） 質問が終わりました。答弁をお願いします。福田農林部長さん。

【農林部長 登壇】

○農林部長（福田 浩） 太田中学校、三浦さん、高階さんの質問にお答えします。

はじめに、荒れた田んぼに地域の特産物を栽培することについてですが、市では、農家の皆さんが農地を荒らさず、農業を安定して持続していけるよう、農業経営の法人化や新規就農者研修施設での研修などにより後継者を育成しておるほか、農地の生産環境改善に向け、ほ場整備や農地集積の支援を行っております。

また、全ての農地で稲作ができれば良いのですが、米の需要も毎年減っていることから、米の価格を安定させるための生産調整を行い、畑作物、野菜、畜産などの生産活動ができるよう、使用する機械や施設の導入に支援し、農業の複合経営化を進めることで、農業者の所得向上と経営拡大に取り組んでおります。

耕作放棄地につきましては、農地や農道が狭くいびつであったり、利用できる水が少ない、栽培条件が悪いなど、様々な問題があるため、状態に応じた個別の相談に対応し、農地の有効利用に結びつけてまいりたいと考えております。

曲がりねぎなどの地域特産物につきましては、以前より、県や市で生産者を増やす取り組みを進めてきたところでありますが、機械化等による大規模な栽培は難しい作物ということもあり、なかなか規模が拡大しない現状です。そうした中、市では、地域特産の伝統野菜を後世に残すために、市の新規就農者研修施設での栽培や、種子保存のための栽培農家に対して支援しているところであります。

次に、農業高校や企業などへの田んぼの賃貸や寄附、そこで作られた米などのブランド化につきましては、農業高校については、以前より、市のイベントでのPRの場の提供やアイデア募集などの協力体制を築いておりますが、基礎的に農作物生産や加工販売などを学ぶ学習の場ということもありまして、農地面積は、その生徒数や授業内容に沿ったものになりますので、ご要望があれば、それに沿って考えてまいりたいと思います。

工場や会社などの企業への農地の貸し借りや寄附については、法律上の取り決めにより一定の要件を満たす必要があり、難しい状況です。このため、大仙市では農業法人の規模拡大を推進しており、こうした法人に対して農地の集約が進んでおります。

ブランド化につきましては、今年度、市では、持続可能な強い農業を目指し、本市の強みである地域資源を活用した「農業と食」をテーマとする「大仙市農業と食に関する活性化基本構想」の策定に取り組んでおり、市内で一定の基準で作られた米を「魚沼産コシヒカリ」のように「大仙あきたこまち」として販売したり、大仙市産の酒米を使ったお酒を造るなど、地域イメージによるブランド化を進めようとしております。

次に、アグリツーリズムの強化拡充につきましては、平成6年に関係法令が制定されたことから、農山村地域において都市住民を受け入れるための条件整備が進められ、近年は訪日外国人旅行者を含む観光客を農山村に呼び込み、その土地の魅力を味わってもらう重要な手段となっております。

本市では、以前より農業体験等の受け入れを実施している9団体が、春・秋の田植えや稲刈り等の

活動を行っております。

これまで受け入れ農家の体制づくりや、小・中学校の教育旅行誘致・PR活動を行ってまいりましたが、今後は、来年度に策定予定の観光振興計画の基本方針と行動計画において、ご質問のアグリツーリズムを推進するため、空いた土地の活用を含めた、農泊などの環境整備の支援やPR等を通じて、訪日外国人旅行者や県外からの観光客取り込み推進により、強化拡充につなげていきたいと考えております。

以上であります。

**【農林部長 降壇】**

- 副議長（堀田 龍） 再質問はありませんか。
- 太田中学校（高階 冴） はい、議長。
- 副議長（堀田 龍） はい、22番、高階さん、再質問をお願いします。
- 太田中学校（高階 冴） 太田中学校の高階冴です。再質問をします。



お聞きしたいことが二つあります。

まず一つ目ですが、私たちが調べたところ、秋田県の耕作放棄面積はインターネットで検索できたのですが、大仙市の情報は見付けることができませんでした。そこで、大仙市内の現在の耕作放棄面積を教えてください。

二つ目は、大仙市で現在行っている、耕作放棄地などに対するの対策を教えてください。

- 副議長（堀田 龍） 再質問に対する答弁をお願いします。老松市長さん。

**【老松市長 登壇】**

- 市長（老松博行） 太田中学校の三浦さん、高階さんの再質問にお答えいたします。

はじめに、大仙市の耕作放棄地の面積についてであります。2015年の農林業センサスにおきまして、過去1年以上作物を栽培せず、今後、数年の間に再び作付けする意思のない土地ということで調べられておりますが、面積は834ヘクタールであります。ただ、新しいといえますかね、この次の農林業センサスは、ちょうど今年の2月1日現在で調査されますので、その結果をね、見ますと最新の状況が分かるということになると思います。

次に、市が現在行っている耕作放棄地対策についてであります。農地に関する事務などを専門に取り扱う組織として「農業委員会」という組織があります。その農業委員会の方々が定期的に農地の状態がどのようになっているのか、農地パトロールを実施しております。そして、荒れた農地につきましては、改善に向けた指導等を行っているという状況にあります。また、条件不利を解消し、営農しやすい環境をつくるために、ほ場整備事業、そうした耕作放棄地を含むかたちでのほ場整備事業の実施や、規模拡大したい農業者への紹介、また、地域の皆さんによる農地保全活動などを行ってまいりまして、耕作放棄地を解消し、これ以上増えないよう、農地の所有者への個別相談や地域ぐるみの活動を通じた取り組みを実施しているのが、現在の取り組みの内容であります。

**【老松市長 降壇】**

- 副議長（堀田 龍） これにて太田中学校、21番、三浦千隆さんと、22番、高階冴さんの一般質問を終わります。

**【太田中学校議員 自席へ】**

- 副議長（堀田 龍） 次に平和中学校、7番、近葵衣さんと、8番、渡辺奏良さんをお願いします。
- 平和中学校（近 葵衣） はい、議長、7番。
- 平和中学校（渡辺奏良） はい、議長、8番。

【平和中学校議員 対面式演壇に登壇】

- 副議長（堀田 龍） それでは7番、近さん、質問をお願いします。
- 平和中学校（近 葵衣） 平和中学校の近葵衣です。総務部に、災害対策・避難所開設に関する質問をします。



日本は自然災害大国です。全世界で起こったマグニチュード6以上の地震の約20パーセントは日本で起こっています。また、日本のどこかで毎日数回の地震が起り、時には大きい津波の被害も発生しています。さらには、台風や豪雨によって河川が氾濫したり、土砂崩れが発生したりしています。

私たち神岡地区は、大雨による水害が心配です。一昨年の夏や昨年には水害により、実際に学校が避難所となりました。このように地震や大雨による災害が発生すると、避難所が開設されることとなります。それに備え、平和中学校では毎年、地域の方と一緒に避難所開設訓練を実施しています。

これが実際に、大雨による水害で避難所開設したときの写真です。近くの高齢者施設から避難してきた方々です。スムーズな歩行が困難な車椅子の人や、寝たまま避難してきた人が多かったです。このように体育館の半分以上を、高齢者施設から避難してきた方々が占めていて、地域住民が避難してきても居る場所が狭く、開設期間は短かったとはいえ、課題がありました。

東日本大震災や最近の台風や大雨による災害時の避難所では、長期化したことにより、様々な問題が起こっています。例えば、トイレ・水や食料・プライバシーの確保・寒さ対策・お風呂などです。大仙市で避難所開設したときは、これらの問題はどうかだったでしょうか。

避難所開設のために、神岡支所などの市の施設には、たくさん物資を備蓄していると思います。有事のときは市の職員の方々が物資を運んでくださるとしても、学校の体育館に備蓄されている物資は、シート・飲料水・パーテーション用のダンボール・簡易トイレ・発電機などで、初期対応のものとしては種類や量が十分ではないような気がします。そして、時期によっては、食料より寒さ対策の方が大事なることも考えられます。避難所を開設したことがある平和中学校としては、備蓄物資に敷物や毛布などを充実させていくことも必要ではないかと考えています。さらには、避難所のプライバシー問題において、女性の更衣室や男女別の避難所、個別のテントの対策も必要だと聞いたことがあります。

これは、平成30年12月改訂の「大仙市地域防災計画」の中に書かれていた、平成25年3月末の緊急救援物資の備蓄状況です。当時、防災計画には、整備目標数量として1,320人分の備蓄を見込むと書かれていたので、現在はこのデータより備蓄量が多いと思います。それでも、市の備蓄品の種類や量は、十分ではないような気がします。

そこで、次の二つについて質問したいと思います。

一つ目は、今後、備蓄品の種類は、どのように充実させていくのでしょうか。また、寒さや暑さ、プライバシー対策のために、どのような対策を講じているのでしょうか。

二つ目は、大仙市内は学校の統廃合などにより、使用されていない学校などの施設があります。その施設を備蓄倉庫として活用していくのはいかがでしょうか。また、平和中学校のように、避難所になる学校などに毛布などを備蓄していただくことはできないでしょうか。

この二つの質問について、現状と今後の計画を伺いたいと思います。

○副議長（堀田 龍） 質問が終わりました。答弁をお願いします。舩谷総務部長さん。

【総務部長 登壇】

○総務部長（舩谷祐幸） 平和中学校の近さん、渡辺さんの質問にお答えいたします。

質問の、災害・避難所対策についてでありますけれども、はじめに、市の災害備蓄品につきましては、県の地域防災計画で定めております県と県内25市町村による共同備蓄という形で、大仙市では1,320人が3日間、避難生活を送れる数量を目安に、アルファ米や飲料水、毛布など19品目を揃えております。

また、市内のスーパーやホームセンターなどのほか、県や他市町村とも災害時の応援協定を結びまして、優先的に必要物資を提供していただけるよう対策を講じているところであります。

この他、市民の皆様には、災害時にすぐに避難ができるよう、前もって水や食糧などを非常用の持ち出し袋に入れて準備をしていただき、避難情報が発令された際には、それを持って避難されるようお願いをしているところであります。まだ、非常用の持ち出し袋をご準備をされていない方に対しまして、ぜひ、皆様からも各家庭での準備についてのPRをお願いしたいと思います。

また、寒さや暑さ対策に対して、今年度より、市内各小学校の教室にエアコンの設置を進めているほか、停電時にも対応できるよう扇風機やストーブと一緒に発電機を配備しまして、施設の環境や災害の状況に応じて対応できるよう、各避難所の体制を整えております。

次に、プライバシー対策としまして、段ボールのパーテーションを準備してございまして、体育館などの広いスペースにおいて世帯ごとの空間を確保するほか、用具室や更衣室などを着替えや授乳時のスペースとして使用するなど、施設の間取りや設備などを有効に活用しながら、プライバシーの確保に努めることとしております。

さらには、避難所運営ゲーム、これなどを通じまして、職員研修や市民への防災講話の場で、様々な課題を抱えた避難者のストレスを、少しでも軽減できる避難所運営の大切さを広く啓蒙しまして、実際の避難所運営に生かせるよう取り組んでいるところであります。

また、市では今年度、新たな備蓄品としまして、昨年3月に国内での販売が始まりました乳児用の液体ミルクと、使い捨ての哺乳瓶を備蓄品目として加えたほか、外国人避難者への対応ができるように、コミュニケーションボードや多言語による標示案内なども準備をしております。

今後も、時代の変化に合わせて、避難所生活により適したものを選定しまして、新たに備蓄品目に加えるなど、さらなる充実を図り、より良好な避難所環境を確保できるように努めてまいります。

次に、廃校舎の備蓄倉庫としての活用についてでありますけれども、市では平成29年7月の水害発生時までは、大曲小学校と廃校となっておる神岡地域の旧北神小学校の2カ所に集中して、災害備蓄品を保管しておりました。しかし、この水害では道路冠水や土砂災害が各地で発生しまして、道路が通行不能な状態となったことから、すぐに避難所へ物資を輸送することができませんでした。市では、この経験を生かしまして、迅速に避難者に物資を提供できる体制を整えるために、避難所や各支所を中心に分散して備蓄するよう取り組んでいるところであります。

現在、主な備蓄品については、アルファ米を23カ所、飲料水を25カ所、毛布を32カ所に備蓄しているほか、昨年12月には、お二人の平和中学校をはじめ各中学校にも毛布や敷物シートなど、避

難初期に対応できる物資についての備蓄をお願いしており、本年2月頃に、配備ができる予定となっております。

今後も、より迅速に避難者へ物資をお届けできるよう、廃校となった学校も含めまして、避難所となっている箇所を中心に、施設の管理状況なども確認した上で、備蓄箇所を増やして行きたいと考えております。

以上です。

**【総務部長 降壇】**

○副議長（堀田 龍） 再質問はありませんか。

○平和中学校（渡辺奏良） はい、議長。

○副議長（堀田 龍） はい、8番、渡辺さん、再質問をお願いします。

○平和中学校（渡辺奏良） 平和中学校の渡辺奏良です。再質問をします。



本校では「自助・共助」の気持ちを持ち、社会に役立つ力を育むために、全校による避難所開設訓練だけでなく、学年において被災地交流や神岡地域防災学習を行っています。

「自助・共助」を推し進めていくためにも、私たちに何ができるのかを考えていくために、身近にできる防災・減災対策について、講話や実演などの支援をしてもらうことは可能でしょうか。

よろしくお願いします。

○副議長（堀田 龍） 再質問に対する答弁をお願いします。佐藤副市長さん。

**【佐藤副市長 登壇】**

○副市長（佐藤芳彦） 平和中学校の近さん、渡辺さんの再質問にお答えを申し上げます。

平和中学校では、毎年、積極的に被災地交流や防災訓練などに取り組んでいただいております。大変ありがたく思っているところであります。

市でも、毎年、平和中学校で開催されております避難所開設訓練を参観させていただいております。テキパキと避難所を作製する皆さんの動きに、感心をしているところであります。

ご質問の、防災に関する講話や実演などにつきましては、避難所開設訓練や授業の中で時間を設けていただければ、地震対策や水害対策、災害時の情報収集、避難対策など、皆さん希望するテーマに沿って、それぞれ対応させていただきたいというふうに考えております。

また、地域防災力向上のため、地元の自主防災組織や近所の方なども一緒に、防災・減災対策に取り組んでまいりますので、よろしくお願いします。

以上であります。

**【佐藤副市長 降壇】**

○副議長（堀田 龍） これにて平和中学校、7番、近葵衣さんと、8番、渡辺奏良さんの一般質問を終わります。

**【平和中学校議員 自席へ】**

○副議長（堀田 龍） ここで、議長交代のため、暫時、休憩いたします。

午後3時51分 休 憩

午後3時52分 再 開

○議長（近 葵衣） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、日程第5、決議案第3号「笑顔あふれる魅力あるまちづくり」に関する決議案を議題といたします。

本決議案は、議長を除き、全議員の提案であります。提案者を代表して18番、南外中学校の今野咲希さんから提案理由の説明をお願いいたします。

○南外中学校（今野咲希） はい、議長、18番。

【南外中学校 今野咲希さん 登壇】

○議員（今野咲希） 決議案第3号は、お手元に配付しております決議案を読みあげまして、提案理由の説明に代えさせていただきます。

私たち大仙市の中学生は、「ふるさと大仙のよさ」を大切に守り続けるとともに、大仙市の未来をつくる主役として、地域の皆さんと力を合わせ、笑顔あふれる魅力あるまちを創造していきます。

何とぞ、中学生議員の皆さんのご賛同をお願い申し上げます。



【南外中学校 今野咲希さん 降壇】

○議長（近 葵衣） 以上で、提案理由の説明は終わりました。

本件は、議長を除く全議員の提案でありますので、質疑と討論を行わず、直ちに採決したいと思います。これに、ご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（近 葵衣） ご異議なしと認めます。

これより、決議案第3号を採決いたします。この採決は、起立をもって行います。

ただいま提案されました決議案第3号「笑顔あふれる魅力あるまちづくり」に関する決議案は、原案のとおり可決することに、賛成の皆さんのご起立をお願いいたします。



【起立 全員】

○議長（近 葵衣） 起立全員です。よって、決議案第3号「笑顔あふれる魅力あるまちづくり」に関する決議案は、原案のとおり可決されました。  
ご着席ください。

---

○議長（近 葵衣） 以上で、本中学生議会の日程は、全て終了しました。  
これにて、令和2年大仙市中学生議会を閉会いたします。  
お疲れさまでした。

午後3時55分 閉 会

この会議録の内容に間違いがないことを確認し署名します。

令和 2 年 / 月 28 日

大仙市中学生議会議長

平和中学校 近 葵衣

議長

平和中学校 渡辺奏良

議員

大曲中学校 田口 和沙

議員

大曲西中学校 小原 琉羽

議員

大曲南中学校 小松田 梓音

## <閉会式>

### ◆ 記念品の贈呈



【代表 西仙北中学校 三浦和さん】

### ◆ 吉川正一 教育長あいさつ

今回で3回目となる大仙市中学生議会でありましたが、本当にお疲れ様でした。皆さんの「大仙市を元気に、そして発展させたい」という思いが、ひしひしと伝わってきた素晴らしい議会だったと思います。

市内の全中学校が参加し、進めている中学生サミットのキャッチフレーズは、「大仙市の未来は私たちがつくる」です。今日、皆さんが質問した内容からは、その思いが伝わってきました。これこそ、「大仙市の未来は皆さんにかかっている」といっても過言ではないと思います。また、

大仙市教育委員会では、地域活性化に寄与できる児童生徒の育成を目指していますが、その姿の一端が今回の中学生議会で見られたのではないかと考えております。冒頭で金谷議長さんからお話がありましたが、できれば皆さんの中から大仙市の市議会議員になってもらいたいと考えております。

大仙市中学生議会は、3年に1回しか行われないう大変貴重な機会です。この経験が、これから皆さんが社会に出たときに活かされているのではないかと思います。ご承知のように、社会の変化のスピードは本当に早いものです。その社会の中で、皆さんが生きていくということは大変なことです。このような時代だからこそ、必要な力があります。それは「問題解決力」です。これは、学校の授業において、問題や課題があり、それらについて予想を立てながら解決していくことです。これからは、「問題解決力」がますます重要になってきており、このような力のない人は、社会人として成功することが難しいと言われております。今、中学生で「問題解決力」を高めるために必要なものは、簡単にいうと「質問できる生徒」であります。そのためには、まず今回の大仙市中学生議会のように、自分のこと、あるいは分からないことなどを、先生や大人の方々にどんどん質問することが大切になります。遠慮せず、分からないことやもっと知りたいことなどをどんどん質問することができる生徒を目指して、これからの学校生活を送ってもらいたいと思います。今日は、校長先生をはじめ、



学校の先生方がたくさん来ています。皆さんのために先生方は頑張ってくれると思います。皆さんもぜひ、努力してほしいと思います。

今日の大仙市中学生議会の経験を大切に、疑問をもち、そして自ら解決していこうとする大人になって、大仙市を元気にしていってほしいと願っております。

今日は本当にありがとうございました。これからもよろしく願いいたします。

## ◆ 中学生議員代表（西仙北中学校 佐々木麻央さん） お礼のことば



本日は、老松市長様をはじめ、市議会議員の皆さま、そして大仙市役所職員の皆さま、私たちにこのような貴重な経験させていただき、ありがとうございました。

この議会を通して、大仙市をより良くするために、様々な視点から深い議論をなされていることを知ることができました。また、これまでの活動から、大仙市が行っている政策や施策などについて、あらためて考えることができました。

これからも、大仙市のために様々な活動をして下さっている方々への感謝の気持ちを忘れずに生活していきたいです。

今日のこの経験から、今まで以上にふるさとへの探求心を持って生活していきたいと思いました。そして将来、この生まれ育ったふるさとに、私たち中学生が少しでも

恩返しできるよう、日々頑張っていきたいです。

本日は本当にありがとうございました。

